

目 次

| | |
|------------------------|-----------|
| はじめに | 2 |
| I 博物館概要 | |
| ○設置目的・概要..... | 3 |
| ○沿革..... | 4 |
| ○施設・設備..... | 5 |
| II 平成元年度 組織・運営 | |
| ○組 織..... | 7 |
| ○予 算..... | 8 |
| ○事業計画..... | 9 |
| III 昭和63年度のあゆみ | |
| ○職 員..... | 10 |
| ○日 誌 抄..... | 10 |
| ○実施事業..... | 13 |
| ○常 設 展 | |
| (1) 刀剣コーナー..... | 14 |
| (2) 書画コーナー..... | 14 |
| (3) スタディコーナー..... | 14 |
| ○特 別 展 | |
| (1) ふるさとの湿原..... | 15 |
| (2) 中山道—美濃十六宿..... | 16 |
| (3) 中生代の化石..... | 17 |
| ○資料紹介展 | |
| (1) 民具—農具のうつりかわり..... | 18 |
| (2) 人里の動物..... | 19 |
| ○その他の展示 | |
| (1) 館蔵資料紹介「金華山焼」..... | 20 |
| (2) 新館蔵資料紹介「海産貝類」..... | 20 |
| ○調査研究・資料収集活動 | |
| 自然部門..... | 21 |
| 人文部門..... | 23 |
| ○教育普及活動..... | 24 |
| ○図書資料寄贈者芳名一覧..... | 26 |
| ○利用状況..... | 29 |
| ○博物館関係団体..... | 30 |
| VI 利用案内 | 31 |

はじめに

県博物館は、生涯教育の一翼を担う社会教育機関として、開館以来14年目を迎え、年々充実してまいりました。この間の県民の皆さま方のご協力や、関係の方々のご指導に対しまして、厚く御礼申し上げます。

博物館の機能は、資料の収集・整理保存・調査研究・教育普及活動であります。これらの事業に対しましては、皆さま方の要望に応え、その推進を図ってまいりました。

昭和63年度には、中部未来博が岐阜市を会場に7月から9月にかけて開催され、盛会裡に終了いたしました。当館もこの協賛事業として、中部未来博88記念展「中山道一美濃十六宿」を開催いたしました。春秋には恒例の特別展、冬には資料紹介展、他に県博日曜講座を始め各種催し物を開催してまいりました。

本年度の特別展は、春は「濃飛の古墳時代」、夏は「ふるさとの野鳥」、秋は「移ろいゆく年中行事」を開催する準備を進めています。諸事業につきましても、さらに充実した内容とし、県民の皆さまのご期待にそうよう、努めてまいりたいと考えております。

ここに昭和63年度の活動記録をまとめた、岐阜県博物館報第12号をお届けいたします。これまでのご理解とご支援に心からお礼申し上げるとともに、今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

平成元年4月1日

岐阜県博物館長 伊藤 秀幸

I 博物館概要

〔設置目的〕

岐阜県の人文、自然両分野にわたる諸資料を公開し、併せて、教育普及活動を行うことにより、広く県民の学習の場となり、また文化財保護の精神の涵養に役立て新しい教養と文化の発展に寄与することを目的とする。

当博物館の基本的な性格と、資料収集・展示構成及び事業運営についての基本的な方針は次のとおりである。

〔概要〕

1. 基本的性格

岐阜県の人文（考古、歴史、民俗、美術工芸）自然（動物、植物、地学）等に関する諸資料の収集、保管、展示、調査研究およびその活用をはかる総合博物館とする。

学校教育・社会教育との密接な連携をはかり、利用者が楽しく学習することができ、未来への探究心と創造性を開発させるような生涯教育機関とする。

県内の博物館および相当施設との連携をとり、資料の交換、提供をはかり、本県の中央博物館としての役割をはたす内容と設備を有する施設とする。

資料の開発および保存活用について、専門的な調査研究を推進する。

2. 資料収集

県内の考古・歴史・民俗・美術工芸、自然等に関する資料を収集する。

資料は、実物を中心とするが必要に応じ厳密な考証にもとづく復元模型を含める。

寄贈、寄託、借用、購入等によって収集する。

3. 展示構成

展示は、常設展示と特別展示とする。

常設展示は、総合展示と課題展示とし、それぞれ人文、自然の二部門に分ける。総合展示は、だれにも親しめるように平易な展示を心がけ、本県の歴史の発展の概要と、自然環境の概要を理解しやすく展示する。課題展示は、内容において、前者よりやや高度のものとする。

展示の方針は、(1)生涯教育の場として、幅広い層に親しめる展示、(2)単なる資料の羅列ではなくストーリーのある展示、(3)総花的展示を避け、各時代の特色やテーマの本質をとらえた展示、(4)出来る限り実物資料を展示するが、さらに凶表、模型等多種類の資料も活用、(5)視聴覚機器などを取り入れ観る人に強く訴える設備、(6)明確でわかりやすい解説、とする。

展示室の主題と内容は次のとおりである。

・人文総合展示（人文展示室1）

主題「郷土のあゆみ」—原始時代から近代、現代に至るまでの歴史の流れと、各時代の特色をわかりやすく展示する。

・自然総合展示（自然展示室1）

主題「郷土の自然とおいたち」—郷土の自然のあらましを生態的にわかりやすく展示する。

・人文課題展示（人文展示室2）

主題「郷土の美術工芸」—特色ある郷土の美術工芸を部門別、時代別に展示する。

・自然課題展示（自然展示室2）

主題「郷土のさまざまな自然」—特色ある自然物や事象をテーマ別に系統的に展示する。

・特別展示（特別展示室）

特定の企画とテーマを設けて年に数回展示する。

4. 事業運営

資料は、本県の歴史的発展の立場から価値のあるもの、また県内の自然にかかわる価値のあるものを保全し、収集保存する。

常設展示は、県民の学習に役立たせるため、展示構成の充実をはかる。

特別展示は、テーマの設定に配慮し内容の充実をはかる。

調査研究は、資料に関する専門的技術的な調査研究と資料の展示、保存に関する研究を行う。

教育普及は、各種の催しものを通じて県民の理解と関心を深め、生涯教育の場づくりをする。併せて各種の啓発活動を推進する。

〔沿革〕

岐阜県博物館は、置県100年の記念事業の1つとして、昭和51年5月5日にアカマツの自然林の中に開館した。

県内各地の豊かな資料をもとに、常設展示を自然展示室1・2、人文展示室1・2、に分け、郷土岐阜県を紹介した総合博物館である。

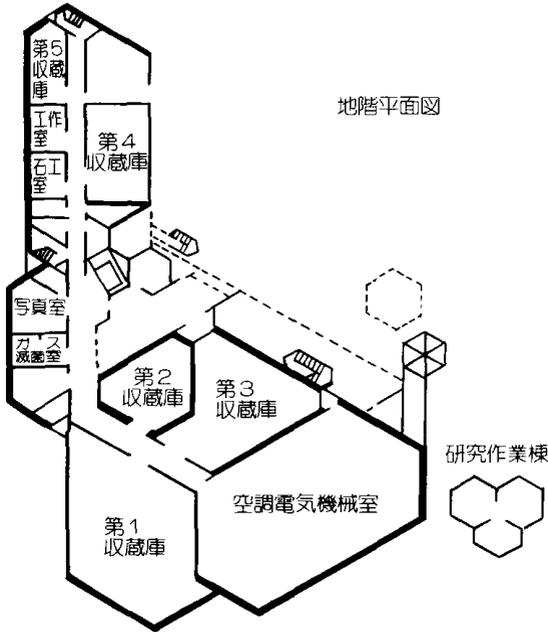
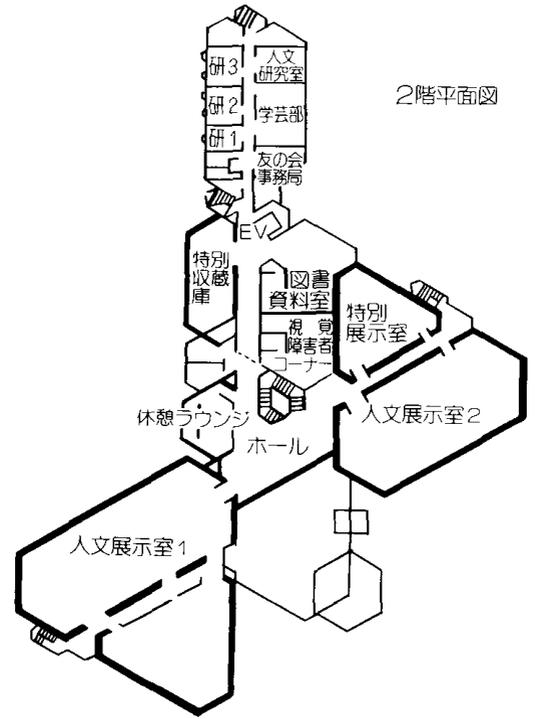
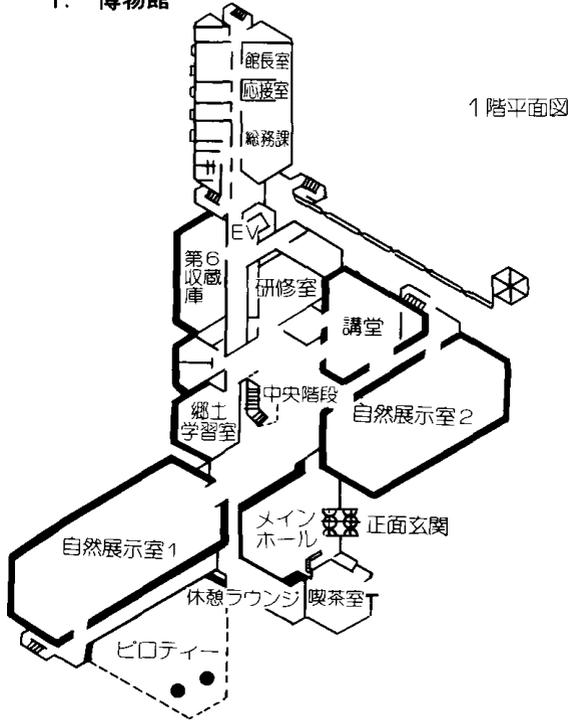
なお、年に数回の特別展も開催している。

博物館建設準備段階からの沿革は次のとおりである。

| | | | |
|---------|-------------------------------------|-------------|-------------------------------------|
| 昭和46年3月 | 岐阜県百年記念事業推進委員会において、博物館の建設を決定 | 昭和55年4月 | 特別展「宝暦治水と薩摩藩」 |
| 4月 | 教育委員会社会教育課に博物館準備担当を配置 | 5月 | 入館者50万人を突破 |
| 8～9月 | 博物館懇談会を設ける | 7月 | 特別展「化石の世界」 |
| 昭和47年4月 | 博物館開設準備室を設置 展示委員会をつくる | 10月 | 特別展「蓑虫山人」 |
| 昭和48年8月 | 起工式挙行 | 昭和56年4月 | 特別展「美濃の絵馬」 |
| 昭和49年3月 | 展示実施計画できる | 5月 | 入館者60万人を突破 |
| 10月 | 定礎式 | 7月 | 特別展「御岳山は生きている」 |
| 昭和50年3月 | 展示工事着手 | 10月 | 特別展「ふるさとの美濃古陶」 |
| 7月 | 本館建築竣工 | 昭和57年4月 | 特別展「高賀山の信仰」 |
| 昭和51年1月 | 展示工事完了 | 入館者70万人を突破 | |
| 4月 | 岐阜県博物館条例公布 岐阜県博物館設置 展示資料等製作完了 | 7月 | 特別展「ふるさとの植物」 |
| 5月 | 開館記念式典挙行一般公開 巨匠三人展・スポーツ栄光展 | 10月 | 特別展「東洋の貨幣」 |
| 7月 | 皇太子同妃両殿下行啓 | 昭和58年4月 | 特別展「岐阜県の考古遺物」 |
| 8月 | 特別展「ふるさとの文楽」 入館者10万人を突破 | 5月 | 入館者80万人を突破 |
| 10月 | 入館料徴収開始 | 7月 | 特別展「長良川」 |
| 11月 | 特別展「熊谷守一展」 | 10月 | 特別展「郷土の生んだ先覚者」 |
| 昭和52年5月 | 特別展「日本伝統工芸秀作展」 入館者20万人を突破 | 昭和59年4月 | 特別展「濃飛の戦国武将」 |
| 7月 | 特別展「郷土の化石展」 | 7月 | 特別展「ふるさとの昆虫」 |
| 11月 | 特別展「鉄斎」 | 8月 | 入館者90万人を突破 |
| 昭和53年4月 | 入館者30万人を突破 特別展「濃飛の甲冑」 | 10月 | 学習室ビデオスタディコーナー設置 |
| 7月 | 特別展「世界のコガネムシ」 | 10月 | 特別展「美濃の蘭学」 |
| 10月 | 特別展「能面と装束」 | 昭和60年4月 | 特別展「濃飛の縄文時代」 |
| 昭和54年4月 | 入館者40万人を突破 | 7月 | 特別展「鉱物の世界」 |
| 4月 | 特別展「濃飛の先史時代」 | 10月 | 特別展「美濃の刀剣」 |
| 7月 | 特別展「世界の貝」 | 入館者100万人を突破 | |
| 10月 | 特別展「濃飛の文人」 | 12月 | 自然展示室IIを改装 |
| | | 昭和61年4月 | 特別展「徳山の四季とくらし」 |
| | | 7月 | 特別展「奥飛騨の自然」 |
| | | 9月 | 人文展示室Iを改装 |
| | | 10月 | 開館10周年記念式典を挙行 開館10周年記念展「ふるさとの祭り」 |
| | | 昭和62年4月 | 特別展「濃飛の弥生時代」 入館者110万人を突破 |
| | | 7月 | 特別展「外国から侵入した生きものたち」 |
| | | 10月 | 特別展「飛騨の匠」 旧徳山村民家移築復元 |
| | | 昭和63年1月 | 自然展示室Iを改装 |
| | | 昭和63年4月 | 特別展示室ショーケース改修 特別展「ふるさとの湿原」 |
| | | 7月 | 中部未来博88記念展 「中山道一美濃十六宿」 |
| | | 10月 | 特別展「中生代の化石」 入館者120万人を突破 |

〔施設・設備〕

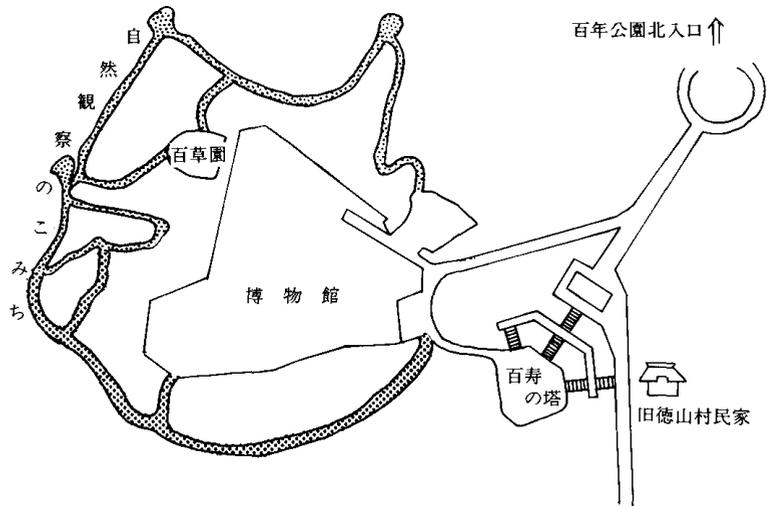
1. 博物館



・主要室名及び面積

| | 室名 | 面積 (㎡) |
|-----|-----------|--------|
| 1 階 | 自然展示室 1 | 583.8 |
| | 自然展示室 2 | 478.8 |
| | 郷土学習室 | 95.4 |
| | 講堂 | 174.5 |
| | 研修室 | 93.2 |
| | 第 6 収蔵庫 | 142.8 |
| 2 階 | 人文展示室 1 | 942.2 |
| | 人文展示室 2 | 478.8 |
| | 特別展示室 | 193.2 |
| | 図書資料室 | 191.7 |
| | 視覚障害者コーナー | 98.7 |
| | 特別収蔵庫 | 142.8 |
| 地 階 | 第 1 収蔵庫 | 314.1 |
| | 第 2 収蔵庫 | 126.0 |
| | 第 3 収蔵庫 | 192.0 |
| | 第 4 収蔵庫 | 99.4 |
| | 第 5 収蔵庫 | 55.0 |

2. 野外施設



(1) 自然観察のこみち

館内における“郷土の自然”の展示に対応し自然環境の中の生きた展示物として、季節とともに移り変わる自然のすがたを観察できるようにしたこみちである。

全長約830mで、途中見晴らし台が3ヶ所、万葉集の植物の案内、ツツジの群生地、百草園、マンサクの林などが設けられている。

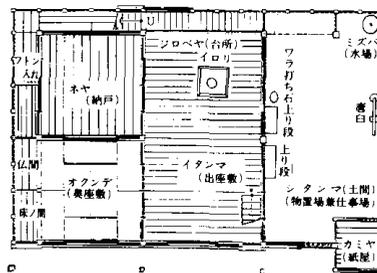
(2) 旧徳山村民家

徳山ダム建設計画にともない、徳山村は閉村となり藤橋村となったが、徳山の生活を後世に語り継ぐため、当時徳山村戸入在住の宮川澄雄さんから家屋の提供を受け、昭和62年10月7日、移築復元を完了したもので、生活用具等も展示し無料開放している。

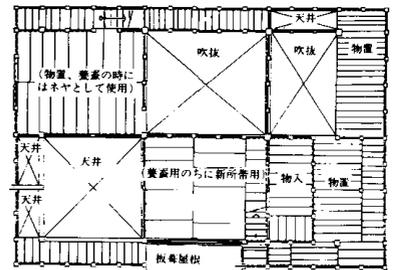


(民家のあらまし)

- ・様式 木造かやぶき2階建、南平入り
- ・主材 ブナ・トチ
- ・建面積 120.97㎡
- ・延面積 197.48㎡
- ・間取り 右図参照
- ・建築年代 幕末から明治初年ごろと推定
- ・屋根 入母屋式、切り落とし窓つき



1階間取り図

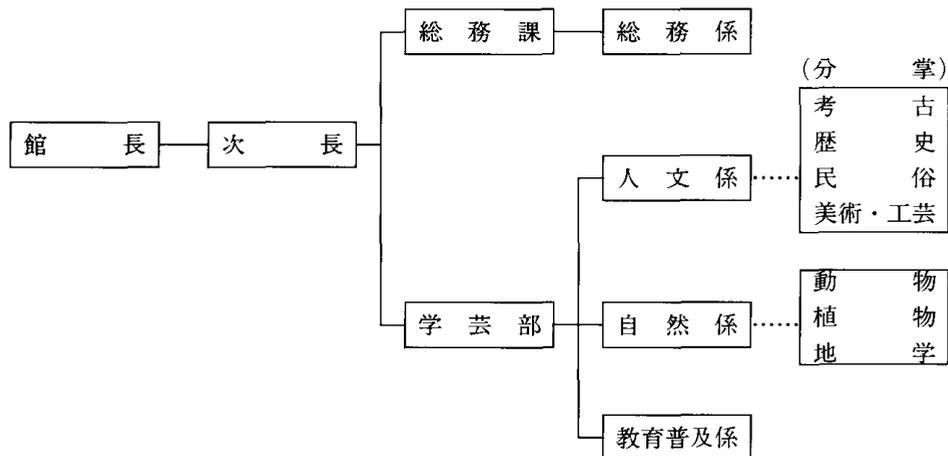


2階間取り図

II 平成元年度 組織・運営

〔組織〕

1. 機構



2. 職員

平成元年4月1日現在

| 職名 | 氏名 | 職名 | 氏名 |
|------------------|-------|---------------|-------|
| 館長 | 伊藤秀幸 | (学芸部) | |
| 次長兼総務課長 〔総務課〕 | 竹下修 | 学芸部長 | 清水昭男 |
| 課長補佐(兼)総務係長 | 福田正美 | 課長補佐(兼)人文係長 | 清水廣美 |
| 主任 | 山口弘子 | 課長補佐 | 尾関章忠 |
| 主事 | 鷺見信明 | 学芸主事 | 川瀬善治 |
| 〃 | 吉田明美 | 〃 | 今津利雅 |
| 〃 | 鈴木猛久 | 教育主事 | 今井雅巳 |
| 技師 | 林作男 | 課長補佐(兼)自然係長 | 國光正宏 |
| 業務嘱託員 | 山口誉里子 | 課長補佐 | 遠藤俊治 |
| 〃 | 石井敬子 | 学芸主事 | 中島恬明 |
| 〃 | 三浦佳子 | 学芸嘱託員 | 後藤常明 |
| 〃 | 土田みゆき | 課長補佐(兼)教育普及係長 | 長谷川道明 |
| 〃 | 島戸由里子 | 学芸主事 | 堀部満司 |
| 〃 | 青木千真 | 学芸嘱託員 | 大平高司 |
| | | 〃 | 大沢淳一 |
| | | | 近藤普潤 |

3. 博物館協議会

当協議会は、博物館の運営に関し、館長の諮問に応じ、又は意見を述べる機関として、岐阜県博物館条例(昭和51年)第2条の規定に基づいて設置され、委員は次のとおりである。

◎…会長 ○…副会長

平成元年4月1日現在

| 氏名 | 住所 | 現職 |
|---------|-----------------|-----------------|
| ◎林 金 雄 | 各務原市那加雲雀町37-2 | 岐阜大学名誉教授 |
| ○土 屋 齐 | 大垣市荒尾町1077 | (株)大垣共立銀行取締役会長 |
| 坂 倉 又 吉 | 羽島市竹鼻町2733 | 千代菊(株)取締役社長 |
| 溝 脇 昭 人 | 岐阜市鷺山186-1 | 岐阜新聞社(株)論説委員 |
| 野 村 忠 夫 | 稲沢市下津町東国府34 | 岐阜大学教育学部教授 |
| 福 井 豊 海 | 各務原市つつじが丘2-130 | 岐阜県高等学校長協会会長 |
| 古 田 文 兵 | 美濃加茂市中富町1-2-31 | 岐阜県中学校長会会長 |
| 佐 野 晃 | 岐阜市栗野東3-447 | 岐阜県小学校長会会長 |
| 堀 保 | 多治見市喜多町7-22 | 岐阜県私立中学高等学校協会会長 |
| 青 木 秀 英 | 本巣郡真正町下真桑1148-1 | 岐阜県公民館連合会会長 |
| 篠 田 薫 | 岐阜市栗野西1-10 | かぐや第三幼稚園副園長 |

〔予 算〕

当初予算額 (単位 千円)

| 区分 | 年度 | | 昭和61年度 | 昭和62年度 | 昭和63年度 | 平成元年度 |
|-----|----------------------------|------------------|---------|---------|---------|---------|
| | 区分 | | | | | |
| 歳入 | 博物館使用料 | | 9,530 | 9,166 | 12,528 | 12,434 |
| | 諸収入 | | 300 | 313 | 279 | 279 |
| | 合 計 | | 9,830 | 9,479 | 12,807 | 12,713 |
| 歳出 | 博管理 物運 管 館費 | 運 営 費 | 30,453 | 31,869 | 31,460 | 32,375 |
| | | 施 設 管 理 費 | 83,609 | 79,295 | 80,125 | 78,350 |
| | | 博物館協議会費 | 308 | 308 | 308 | 335 |
| | | 計 | 114,370 | 111,472 | 111,893 | 111,060 |
| | 博 物 館 事 業 費 | 常 設 展 示 費 | 23,279 | 22,279 | 21,479 | 6,410 |
| | | 徳山村文化遺産 保存事業費 | 14,100 | 18,078 | 0 | 0 |
| | | 特 別 展 示 費 | 10,000 | 7,200 | 10,000 | 8,693 |
| | | 資料収集管理費 | 1,940 | 1,940 | 2,064 | 1,321 |
| | | 教育普及活動費 | 2,400 | 2,400 | 2,400 | 2,677 |
| | | 調 査 研 究 費 | 600 | 600 | 600 | 611 |
| 計 | | 52,319 | 52,497 | 36,543 | 19,712 | |
| 合 計 | | 166,689 | 163,969 | 148,436 | 130,772 | |

〔事業計画〕

展示活動

| 事業名 | 期間 | 主な展示内容 |
|-------------------------------|-------------------------|------------------------------------------------------------|
| 常設展 | | 1階自然展示室は郷土の自然、2階人文展示室は郷土のあゆみと美術工芸を展示。刀剣コーナーは4回展示替え。 |
| 特別展 「濃飛の古墳時代—古代からのタイムカプセル」 | 4/26～6/18 | 濃飛の古墳文化の代表的遺産を一堂に集め、古墳時代の特色や当時の人々の生活文化の実相を紹介する。 |
| 特別展 「ふるさとの野鳥」 | 7/12～9/17 | 鳥の生態やふるさと岐阜県の野鳥を紹介し、人と野鳥とのかかわりを考える。 |
| 特別展 「移ろいゆく年中行事」 | 10/4～11/26 | 四季の変化と暦・生業とのかかわりのなかで年々歳々うつろいゆく年中行事を紹介する。 |
| 資料紹介展 「硯」 「ブナ林」 | 12/13～1/30 2/11～3/31 | 端溪を中心とした古硯約40面を紹介する。 ブナ林にみられる様々な植物について紹介する。 |
| 移動局 | 7/21～7/30 8/2～8/11 | 白鳥町社会福祉センター 県内にみられる植物や動物を押し葉標本や 郡上八幡総合文化センター 刺製標本で紹介する。 |

教育普及活動

| 事業名 | 期日 | 対象 | 定員 | 内容 |
|-----------|-----------------------|----------|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 特別展講演会他 | 5/7 | — 一般 | | 美濃の前期古墳(シンポジウム) 赤塚 次郎氏・中井 正幸氏・長瀬 治義氏・藪下 浩氏 |
| | 5/21 | — 一般 | | 須恵器の時代 大谷女子大学助教授 中村 浩氏 |
| | 7/30 | — 一般 | | ふるさとの野鳥 日本野鳥の会岐阜県支部事務局長 大塚之穂氏 |
| | 10/15 | — 一般 | | 「時」と「季節」のまつりごと—年中行事の構造をさぐる— 岐阜大学助教授 伊東 久之氏 |
| | 11/12 | — 一般 | | 岐阜県の山の講 元岐阜県歴史資料館長 角竹 弘氏 |
| 県博日曜講座① | 4/30 | 小学生以上・一般 | | スマイルの観察 |
| | 6/18 | — 一般 | | 鉱物のみかた、しらべ方 |
| | 7/9 | — 一般 | | 村芝居と農村舞台 |
| | 8/20 | 小学生以上・一般 | | 鳥を知ろう |
| | 9/3 | — 一般 | | 明治時代の学校教育 |
| | 9/17 | — 一般 | | 美濃の藩札 |
| | 10/8 | 小学生以上・一般 | | 果実の話(実のなる木) |
| | 11/19 | — 一般 | | こどもと年中行事 |
| | 1/14 | — 一般 | | 甲冑の歴史 |
| | 2/18 | — 一般 | | ブナ林の植物 |
| | 3/4 | 小学生以上・一般 | | 野鳥を友に |
| 自然観察会 | 4/23 | 小学生以上・一般 | | 水生昆虫(津保川を探る) |
| | 6/4 | — 一般 | 30 | 津保川の植物 |
| | 8/5・6 | 親子 | 30 | 御岳の自然をたずねて(針葉樹林の動物・植物) |
| | 9/24 | 小学生以上・一般 | 30 | 秋に鳴く虫 |
| | 10/29 | — 一般 | 30 | 化石のみかた・しらべ方 |
| 親子教室 | 5/3 | 親子 | 30 | やきもの1(はにわをつくる) |
| | 5/28 | — 一般 | 30 | ハンコ彫り(自分の名前前のハンコを彫る) |
| | 8/13 | — 一般 | 30 | 火おこし器をつくろう |
| | 9/10 | — 一般 | 30 | やきもの2(日用品をつくる…施釉) |
| | 11/5 | — 一般 | 30 | 竹細工(笛・竹トンボなど玩具をつくる) 竹細工師 石原 文雄氏 |
| | 12/3 | — 一般 | 30 | 版画(年賀状をつくる) |
| | 12/10 | — 一般 | 30 | 凧づくり(つくって揚げよう) 竹細工師 石原 文雄氏 |
| | 12/17 | — 一般 | 30 | しめなわづくり ワラ細工師 大野 仁久氏 |
| | 2/4 | — 一般 | 30 | 拓本をとろう(基本実技・取拓) |
| | 写生会 | 2/25 | 小学生以上・一般 | |
| ふるさと探訪 | 6/11 | 親子・一般 | 37 | 「輪中を訪ねて」(片野記念館、船頭平、治水神社、三川公園、伎館跡) |
| | 11/1 | — 一般 | 37 | 「人と石のふれあい」 (蛭川村博石館・瑞浪鉱物(宝石)展示館など見学) |
| 民俗芸能 | 5/4 | — 一般 | | 関孫六太鼓 |
| スタディ・コーナー | 2か月ごとに展示替え (入館者対象) | | | ふるさとの岩石…變成岩(3・4月) 百年公園の昆虫(5・6月) 水辺の植物…津保川(7・8月) ふるさとの化石…古生代(9・10月) 哺乳動物の骨格(11・12月) 百年公園の常緑樹(1・2月) ふるさとの化石…新生代(3・4月) |
| 日曜映写会 | 4/26～6/18 | 入館者 | | 「美濃の前方後円墳」(ビデオ) |
| | 7/12～9/17 | — 一般 | | 「ふるさとの野鳥」(スライド) |
| | 10/4～11/26 | — 一般 | | |

III 昭和63年度のあゆみ

〔職員〕

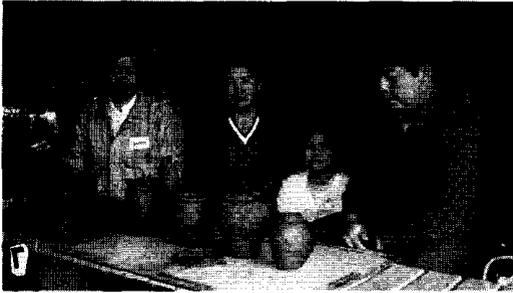
| 職 名 | 氏 名 | 職 名 | 氏 名 |
|-------------|--------|-------------|--------|
| 館次 | 長崎 利光 | 〔学芸部〕 | |
| 〔総務課〕 | 沢田 豊 | 学芸部長 | 鳥居 甚吾 |
| 課長 | 柳瀬 実 | 課長補佐(兼)人文係長 | 清水 廣美 |
| 庶務係 | 尾野 元啓 | 学芸主事 | 名和 正浩 |
| 主任 | 山口 弘子 | 〃 | 尾関 章 |
| 主事 | 鷺見 信明 | 教輸(研修) | 川瀬 善忠 |
| 技師 | 林 作男 | 教育主事 | 今井 雅巳 |
| 課長補佐(兼)管理係長 | 福田 正美 | 課長補佐(兼)自然係長 | 曾我 敏男 |
| 主任 | 伊藤 武嘉 | 学芸主事(学芸員) | 國光 正宏 |
| 業務嘱託員 | 織部 清美 | 学芸主事 | 中島 恬 |
| 〃 | 山口 誉里子 | 学芸主事(学芸員) | 安藤 志郎 |
| 〃 | 石井 敬子 | 学芸嘱託員 | 長谷川 道明 |
| 〃(4~9月) | 佐藤 育栄 | 教育普及係長 | 馬淵 隆 |
| 〃 | 三浦 佳子 | 学芸主事 | 大平 高司 |
| 〃 | 土田 みゆき | 学芸嘱託員 | 大沢 淳一 |
| 〃(11/21~3月) | 吉田 育子 | 〃 | 青木 修 |

〔日誌抄〕

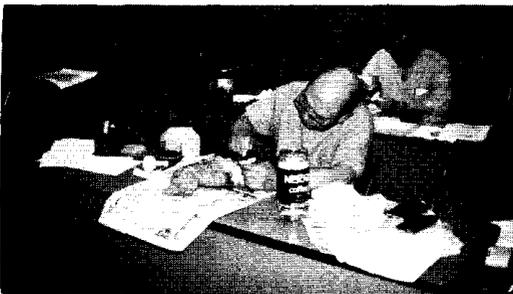
| 人事異動 | | | |
|---------------|--------|------------|---------------------|
| 退職 次長 | 西部 廉 | 新任 業務嘱託員 | 三浦 佳子 |
| 業務嘱託員 | 青山 貴子 | 〃 | 土田 みゆき |
| 〃 | 古田 佳子 | 〃 (11月21日) | 吉田 育子 |
| 〃 (9月30日) | 佐藤 育栄 | 63年 | |
| 転出 総務課長 | 海老澤 吉郎 | 4・1 | 「岐阜県博物館報」第11号発行 |
| 主任主査(兼)管理係長 | 吉原 敏彦 | 〃 | 「博物館だより」第35号発行 |
| 主任学芸主事(兼)人文係長 | 大前 匡昭 | 20 | 特別展示室ショーケース改修工事完成 |
| 主査 | 川端 正 | 23 | 中国江西省文物展展覧代表団一行来館 |
| 学芸主事 | 小川 和英 | 24 | 自然観察会「百年公園・早春の草花」 |
| 〃 | 小森 廣光 | 27 | オブジェ三彩「珠光」(加藤卓男作)披露 |
| 転入 次長 | 沢田 豊 | 〃 | 寄贈・岐阜南ライオンズクラブ |
| 総務課長 | 柳瀬 実 | 〃 | 特別展「ふるさとの湿原」開場 |
| 課長補佐(兼)管理係長 | 福田 正美 | | (6月19日まで) |
| 課長補佐(兼)人文係長 | 清水 廣美 | 〃 | 全国市区選挙管理委員会連合会東海 |
| 学芸主事 | 中島 恬 | | |
| 〃 | 大平 高司 | | |
| 主事 | 鷺見 信明 | | |

支部来館

- 4・29 日曜講座「濃飛の戦国武将」道三をと
りまく戦国の武将たち
- 5・1 特別展講演会「湿原における生物相と
その自然保護」
- 3 親子教室「やきものをつくろう」土器・
皿・つばなど



- 〃 中部未来博パビリオン山東竜の中国技
手来館
- 5 日曜講座「ふるさとの湿原」動物・昆
虫
- 8 民俗芸能実演「関孫六太鼓ほか」
- 10 岐阜県博物館協会通常総会
- 18 四館連絡会議
- 22 日曜講座「ふるさとの湿原」
- 23 スタディコーナー新設（1階階段下）
「県内の魚たち」
- 〃 東海北陸自動車道建設促進同盟会一行
来館
- 29 親子教室「拓本をとろう」



- 6・5 自然観察会「水生昆虫」津保川をさぐ
る
- 19 日曜講座「中世の民俗芸能（延年を中
心として）」
- 20 臨時休館「全館ガスくん蒸消毒」
(26日まで)

- 7・1 「博物館だより」第36号発行
- 10 日曜講座「濃飛の山岳信仰」
- 13 特別展「中山道一美濃十六宿」開場
(中部未来博88記念展・9月15日まで)
- 〃 岐阜県博物館協議会
- 16 岐伯青年親善交流団一行来館
- 19 滋賀県日野町立中央公民館主催
「成人大学講座」「近江商人塾」開催
- 22 中国上海作家 白樺（バイ・ホア）氏
夫妻来館
- 23・24 自然観察会「蛭ヶ野湿原を中心とした
動物・植物」



- 27 移動展「ふるさとの植物・動物たち」
(根尾村文化センター8月7日まで)
- 29 「走る県政バス」一行来館
- 〃 美濃加茂市教育委員会主催
「夏休み子ども講座」開催
- 31 記念展講演会「街道を支えた人々」
- 8・4 「走る県政バス」一行来館
- 6 自治省消防庁職員来館
- 10 移動展「ふるさとの植物・動物たち」
(真正町中央公民館 8月22日まで)
- 〃 「走る県政バス」一行来館
- 14 親子教室「火おこし器をつくろう」
- 21 親子教室「竹細工」笛・竹とんぼなど
- 28 日曜講座「参勤交代」中山道を往来し
た大名たち
- 31 東京都文京区文化財調査員来館
- 9・2 岐阜県高等学校長協会専任理事会メン
バー来館
- 3 香川県議会瀬戸大橋架橋記念博等対策
特別委員会来館
- 11 記念展講演会「中山道と美濃の文化」
- 15 日曜講座「美濃を中心とした河川交通

と産業」

- 18 ふるさと探訪「上麻生れき岩と飛水峡などの見学」
- 23 自然観察会「秋に鳴く虫」
- 25 日曜講座「鉄の伝承（一ツ目小僧と両面宿儺）」
- 30 熊本県博物館協議会委員来館
- 10・9 日曜講座「濃飛の仏像・仏画」
- 10 叻千里文化財団一行来館
- 12 特別展「中生代の化石」開場
(11月27日まで)
- 18 「走る県政バス」一行来館
- 18・19 第13回東海三県博物館協会交流研修会
(海津町文化センターほか)
- 21 入館者120万人目記念品贈呈
- 23 緑豊かなまちづくりフェスタ
(百年公園広場)
- 〃 日曜講座「化石を調べよう」シダ植物化石・フズリナ化石など



- 26 博物館総合案内編集会議
(大阪市・日本生命財団)
- 30 特別展講演会「化石からみた岐阜県」
- 11・6 自然観察会「百年公園・秋の植物」
- 11 建設省道路局・岐阜県道路建設課職員来館
- 13 ふるさと探訪「古墳を訪ねて」野・願成寺・大垣
- 20 特別展講演会「中生代の化石」
- 23 親子教室「ハンコ彫り」自分の名前のハンコを彫る
- 27 日曜講座「濃飛の中世仏教」
- 29 福井県議会予算特別委員来館
- 12・3 「博物館総合案内」用の撮影始める
(日本生命財団・12月8日まで)



- 4 親子教室「凧づくり」
- 11 親子教室「版画（年賀状をつくろう）」
- 13 資料紹介展「民具—農具のうつりかわり」
(1月29日まで)
- 18 親子教室「しめなわづくり」
- 25 笠松町中央公民館主催
「笠松親子ウインター特別教室」開催
- 1・7 昭和天皇崩御
- 8 「昭和」から「平成」元年スタート
- 10 新館蔵資料紹介「陸・海産の貝類」
(2階ロビー・4月9日まで)
- 15 日曜講座「民具の歴史」
- 25 松本市アルプス山岳館職員来館
- 26 全館消防訓練
- 2・11 資料紹介展「人里の動物」
(3月31日まで)
- 12 日曜講座「犬山焼」歴史とその特徴
- 26 「写生会—博物館資料を描く」



- 3・5 日曜講座「人里の動物（動物・昆虫）」
- 31 「岐阜県博物館調査研究報告」第10号発行
- 〃 「旧徳山村地域動植物調査報告書」発行

〔実施事業〕

本年度の展示活動で例年とやや異なっていたことは、夏の特別展が中部未来博の協賛事業となり、中部未来博記念展として開催されたことである。他は例年とほぼ変わらない。特別展中の入館者数はわずかに減少したものの、中部未来博と重なったことを考えればやむをえないだろう。教育普及活動としては、写生会を新たに試み好評を博した。参加総人数は1,526人で例年より増加した。特別展・記念展講演会の回数増と参加人数増の影響が大きい。今後も魅力的な企画を考えていきたい。

展示活動

| 事業名 | 期間 | 主な展示内容 | 入館者数 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| 常設展 | | 1階自然展示室は郷土の自然、2階人文展示室は郷土のあゆみと美術工芸を展示。 刀剣コーナーは3回展示替え。 | 60,018 |
| 特別展 「ふるさとの湿原 —守ろう/湿原の貴重な生物— 中部未来博'88記念展 「中山道—美濃十六宿— 特別展 「中生代の化石 —日本列島が大陸であったころ— | 4/27～6/19 7/13～9/15 10/12～11/27 | 県内の湿原に見られる特有な生物を実物標本を中心に展示し、その貴重さと保護の大切さを紹介する。 美濃十六宿を中心に中山道の歴史、旅のようす、中山道を中心とした美濃文化などを紹介する。 中生代の化石を紹介するとともに、化石を通して解明されつつある中生代の日本列島の地史について解説する。 | 14,609 9,706 16,129 |
| 資料紹介展 民具 人里の動物 | 12/13～1/29 2/11～3/31 | 農具を含んだ民具を実物資料を中心として紹介する。 身近に生息する動物の生態や人のかかわりを紹介する。 | 1,895 6,495 |
| 移動展 | 7/27～8/7 8/10～8/22 | 根尾村文化センター 県内にみられる植物や動物を押し葉標本や剥製標本で紹介する。 真正町中央公民館 | 約700 1,308 |

教育普及活動

| 事業名 | 期日 | 対象 | 定員 | 内容 | 参加人数 |
|------------------------------|----------------------------------------------------------------|------------------------------------------|----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|
| 特別展講演会 記念展 | 5/1 7/31 9/11 10/30 11/20 | — " " " " | 一般 | 湿原における生物相とその自然保護 名古屋女子大学 佐藤 正孝氏 街道を支えた人々 元岐阜県歴史資料館長 太田 三郎氏 中山道と美濃の文化 奈良教育大学教授 赤井 達郎氏 化石からみた岐阜県 名古屋大学教授 糸魚川淳二氏 中生代の化石 化石友の会会員 中島 公一氏 | 44 127 140 163 119 |
| 県博日曜講座① | 4/29 | — | 一般 | 濃飛の戦国武将（道三をとりまく戦国の武将たち） | 8 |
| ② | 5/5 | " | " | ふるさとの湿原（動物・昆虫） | 10 |
| ③ | 5/22 | " | " | ふるさとの湿原（植物） | 33 |
| ④ | 6/19 | " | " | 中世の民俗芸能（延年を中心として） | 8 |
| ⑤ | 7/10 | " | " | 濃飛の山岳信仰 | 33 |
| ⑥ | 8/28 | " | " | 参勤交代（中山道を往来した大名たち） | 71 |
| ⑦ | 9/15 | " | " | 美濃を中心とした河川交通と産業 | 25 |
| ⑧ | 9/25 | " | " | 鉄の伝承（一目小僧と両面宿儺） | 12 |
| ⑨ | 10/9 | " | " | 濃飛の仏像・仏画 | 9 |
| ⑩ | 10/23 | " | " | 化石を調べよう（シダ植物化石・フズリナ化石など） | 62 |
| ⑪ | 11/27 | " | " | 濃飛の中世仏教 | 15 |
| ⑫ | 1/15 | " | " | 民具の歴史（農具のうつりかわり） | 17 |
| ⑬ | 2/12 | " | " | 大山姥（歴史とその特徴） | 43 |
| ⑭ | 3/5 | " | " | 人里の動物（動物・昆虫） | 16 |
| 自然観察会 | 4/24 6/5 7/23・24 9/23 11/6 | 小学生以上一般 " 親子 小学生以上一般 小学生以上一般 | 30 30 50 30 30 | 百年公園・早春の草花 水生昆虫（津保川をさぐる） 蛭ヶ野湿原を中心とした動物・植物 秋に鳴く虫 百年公園・秋の植物 | 30 19 17 29 52 |
| 親子教室 | 5/3 5/29 8/14 8/21 11/23 12/4 12/11 12/18 | 親子 " " " " " " " | 30 40 40 40 40 40 40 40 | やきものをつくろう（土器・皿・ツボなど） 拓本をとうろう（基本実技・取拓） 火おこし器をつくろう 竹細工（笛・竹とんぼなど）竹細工師 石原 文雄氏 ハンコ彫り（自分の名前を彫る） 凧づくり（つくって揚げよう）竹細工師 石原 文雄氏 版画（年賀状をつくろう） しめなわづくり ワラ細工師 大野 仁久氏 | 51 4 39 29 36 28 33 40 |
| 写生会 | 2/26 | 小学生以上一般 | 30 | 博物館資料を描く（甲冑・仏像・人形頭・哺乳動物・鳥など） | 106 |
| ふるさと探訪 | 9/18 11/13 | 親子・一般 " | 37 37 | 上麻生れき岩と飛水峡などの見学 古墳を訪ねて（野・頼成寺・大垣） | 26 32 |
| 民俗芸能実演 スタディコーナー （自然分野） | 5/8 | — | 一般 | 関孫六太鼓ほか | 約400 |
| 日曜映画会 | 2か月ごとに展示替え （入館者対象） | | | 石や土で作った道具（3・4月） 県内の魚たち（5・6月） アザミの仲間（7・8月） ふるさとの岩石（火成岩）（9・10月） 秋に鳴く虫の仲間（11・12月） ドングリの仲間 （1・2月） ふるさとの岩石（変成岩）（3・4月） | |
| | 4/27～6/19 7/13～9/15 10/12～11/27 12/13～1/29 | 入館者 | | 「ふるさとの湿原—植物・動物」（スライド） 「中山道」（16mm） 「恐竜の谷の大異変」（VTR） 「民具・農具のうつりかわり」（スライド） | 517 511 ----- 55 |

〔常設展〕

(1) 刀剣コーナー

当館では、人文展示室2に刀剣コーナーを設け、美濃の刀剣を中心に展示している。今期は、人文展示室2を中部未来博記念展会場にあてたため、6月18日から9月25日まで人文展示室2の常設展示はできなかつた。したがって、例年は4回展示替えを行っているが、今期は3回とした。昭和63度の年間展示資料は下記の通りである。

| 第 1 期 | 第 2 期 | 第 3 期 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 昭和63年 5月2日 ～昭和63年 6月18日 | 昭和63年 9月26日 ～平成元年 1月22日 | 平成元年 1月23日 ～平成元年 3月31日 |
| 刀 無 銘 志 津 刀 無 銘 直 江 志 津 刀 銘 濃 州 赤 坂 住 兼 元 太 刀 銘 兼 光 脇 指 銘 二 王 清 実 脇 指 銘 近 江 守 藤 原 継 広 短 刀 銘 兼 直 槍 銘 相 模 守 藤 原 政 常 | 刀 無 銘 志 津 刀 無 銘 直 江 志 津 刀 銘 濃 州 赤 坂 住 兼 元 刀 無 銘 直 江 志 津 短 刀 銘 兼 房 刀 銘 関 住 若 狭 守 氏 房 太 刀 銘 兼 光 槍 銘 相 模 守 藤 原 政 常 | 刀 無 銘 志 津 刀 無 銘 直 江 志 津 刀 銘 濃 州 赤 坂 住 兼 元 刀 銘 兼 元 短 刀 銘 兼 房 刀 銘 関 住 若 狭 守 氏 房 刀 銘 丹 波 守 吉 道 脇 指 銘 丹 波 守 吉 道 |

(2) 書画コーナー

幕末に活躍した恵那郡付知町の画人三尾暁峰（1798～1876）の作品「百職人の図」「蜀の山道」の2点を昭和63年9月26日から平成元年3月31日まで展示した。

(3) スタディ・コーナー

動物・植物・地学の各分野毎に輪番で、学芸活動のさ、やかな発表の場として、トピック的な問題を取りあげたり、小さなテーマを設定したりして、学習コーナーとして活用しながら資料を紹介している。

「石や土で作った道具」……………3月～4月
私たちの祖先は、遠い昔から石を毎日の暮らしに利用してきた。石とそれで作った道具について紹介。

「県内の魚たち」……………5月～6月
最近見られるようになったカマキリ（アユカケ）を含めて、県内に分布する魚を液浸標本、剥製で紹介。

「アザミの仲間」……………7月～8月
昭和63年3月に新種として発表されたヒダキセルアザミを含めて、県内に生育するアザミの種類と分布を紹介。

「ふるさとの岩石……火成岩」……………9月～10月
岐阜県は種々の岩石が分布することで有名である。そのうちの火成岩を紹介。

「秋に鳴く虫の仲間」……………11月～12月
古くから日本人に親しまれている秋に鳴く虫（コオロギ、スズムシ、キリギリス等）と、その仲間（バッタ、カマキリ等）を紹介。

「ドングリの仲間」……………1月～2月
ナラ、カシ類のドングリの種類を実と標本で展示すると同時に、ドングリを使った遊びを紹介。

「ふるさとの岩石……変成岩」……………3月～4月
県内に分布する変成岩を、熱を受けて変化した接触変成岩グループと、熱と圧力を受けて変化した広域変成岩に分けて紹介。



〔特別展〕

(1) ふるさとの湿原 ー守ろう！貴重な生物ー

4月27日(水)～6月19日(日)

東濃地方の丘陵地の谷筋には、天然の湧水に恵まれた大小さまざまな湿原がある。そこには、ヒメタイコウチ・ヒメヒカゲ・ニホンアカジマウンカなどの昆虫、ミカワバイケイソウ・ミカワシオガマなどの植物がみられる。

一方、飛驒山間部のブナ林帯の凹地など水に恵まれたところには、低層湿原から高層湿原までみられる。そこには、ルリボシヤンマ・カオジロトンボ・ネクイハムシなどの昆虫が生息し、ホロムイソウ・ヒメシャクナゲなどの植物が生育している。

このような湿原にみられる動植物は、私たちの目を楽しませてくれるばかりでなく、学術上も非常に貴重なものである。このような湿原が乱獲、開発で消えつつあるので、歴史的価値を再確認すると同時に、自然環境の保護に関する教育の一助となることを意図とした。

〈展示内容〉

I 歴史を語る湿原

1. 県内の湿原の分布と生い立ち

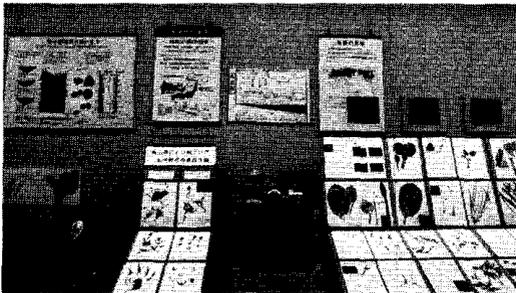
県内の主な湿原の分布は、飛驒地方と東濃地方にかたよっている。

これらの湿原の特徴を、植物、両生類、昆虫などによって展示した。

湿原の生い立ちについては、比較的よく調査されている郡上郡高鷲村蛭ヶ野の高層湿原をとりあげ、解説展示した。



▲岐阜県内の主な湿原の分布



2. 湿原にとり残された生物

氷河時代の遺存種として、飛驒地方の湿原では、ミズバショウ、ホロムイソウ、ヒメシャクナゲ等を展示し、東濃地方については、ミカワバイケイソウ、シラタマホシクサ、シデコブシ、ヒメタイコウチなどを展示した。

II 湿原の生物

・湿原を代表する植物

リュウキンカ、キンバイソウ、キセルアザミ、ワタスゲ、ミズギク、サワシロギク、ニッコウキスゲ、サギソウ、トキソウ、スイラン、ミズゴケなどを標本、写真、分布図で展示解説した。

・湿原の昆虫

ヒラタネクイハムシ、キヌツヤミズクサハムシ、カオジロトンボ、ハッチョウトンボ、サラヤンマ、ヒメシジミ、ヒメヒカゲ、ヒメギスなどを標本、写真、すみ分け図で展示解説した。

・湿原を訪れる哺乳動物

クマ、アカネズミ、ヒメネズミ、ノウサギの標本と活動のあとの写真を展示した。

・湿原で生きるために

モウセンゴケ、イシモチソウ、ミミカキグサ、タヌキモ、ヤチスズ、エゾスズ等を取りあげて、生きるための工夫を解説した。

III 湿原の保護

湿原は、踏み付けや乱獲、乱開発等の人為的な行為に非常に敏感な自然環境である。そこに生きる生物も環境の変化に非常に弱い。

私たちは、このぎりぎりの生命しか育んでいない湿原を後世へ残すために、長期的な展望にたつて、湿原だけでなく、湿原をとりまく環境全体の保全を考えていく必要を強調した。



(2) 中山道—美濃十六宿

7月13日(休)～9月15日(祝)

中山道は江戸と京都を結ぶ官道として、東海道とともに近世における代表的街道であった。

美濃国における中山道は“中山道美濃十六宿”の言葉が残るように、十六の宿場が設けられた。宿場には、本陣・脇本陣や旅籠が整備され、荷物を輸送する問屋も設けられ、美濃の重要幹線道路としての役割を果たした。

また中山道を経由して、東西の文物は多くの脇街道によって美濃地方の産業や文化を高めてきた。

本記念展では、美濃十六宿を中心とした中山道の歴史や、大名や庶民の旅のようす、中山道を中心とした美濃の文化など、街道の紹介と街道の果たした役割を総合的に展示紹介することを考えた。

〈展示構成の概要〉

展示は、I、中山道と美濃十六宿、を導入部とし、II、歴史の道、III、街道と旅、IV、中山道と美濃の文化、の4つのコーナーで構成した。

中山道と美濃十六宿では、中山道全体を浮世絵「木曾街道六拾九次(安藤広重・池田英泉画)」で紹介し、美濃十六宿を「中山道分間延絵図(国重要文化財)」で紹介し、全体の導入部とした。美濃十六宿分については、浮世絵と絵図を重ねあわせることにより往時のようすをよみがえらせようとした。

美濃国は交通の要地であり、東西の接点として重要な役割を演じてきた。歴史の道では、近世の中山道につらなる古代の東山道に設置された近江国境の不破関跡の出土品や、続日本紀の記述にみられる信濃国境の神坂峠出土の祭祀遺

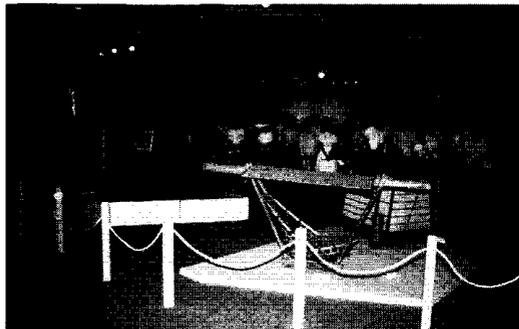
物を中心に展示し、美濃国を東西に貫く歴史の道としての東山道から中山道への変遷を紹介した。

街道と旅では、ア、宿場、イ、問屋場、ウ、本陣・脇本陣、エ、大通行(大名行列・姫行列)オ、庶民の旅(旅籠・旅すがた・飛脚・日野商人)の5つのサブコーナーに分け宿駅の機能と街道を往還した人びとの姿を紹介した。特に大通行の大名行列では、加賀前田公使用の大名旅道具、信州上田松平公の大名行列飾武具、また、姫行列では皇女和宮の遺品および降嫁にかかわる資料を展示しえたことは本展の成果のひとつであった。さらに、大名使用の旅道具と庶民の旅道具との対比、姫君使用の乗物と庶民使用の山駕籠・辻駕籠とを対比させることにより、当時の社会のしくみの一端を紹介した。

中山道と美濃の文化では、ア、芭蕉と美濃の俳諧、イ、頼山陽と美濃の漢詩、ウ、南画の美エ、美濃の蘭学、オ、「夜明け前」と東濃の国学、カ、人形浄瑠璃の6つのサブコーナーに分け、東西文化の接点として美濃地方で生まれた文物を紹介した。

〈関連事業〉

- 講演会 7月31日(土)
講師 元岐阜県歴史資料館長 太田三郎氏
演題 「街道を支えた人々」
- 講演会 9月11日(日)
講師 奈良教育大学教授 赤井達郎氏
演題 「中山道と美濃の文化」
- 県博日曜講座
8月28日(日) 「参勤交代」
9月15日(祝) 「美濃における河川交通と産業」



(3) 中生代の化石

—日本列島が大陸であったころ—

10月12日(水)～11月27日(日)

現在地球上には、何百万種もの生物が生きている。これらの生物は、今から35億年もの昔に発生した極めて下等な生物が、その後の長い年月の中で進化し、種々の生物に分化してきた。しかし、長い地球の歴史の中では、急激な気候変動などの環境に適応できずに絶滅していった数多くの生物がいた。

中生代とは、いまから2億5000万年前から6500万年前までの時代をいい、恐竜やアンモナイトが大繁栄した時代である。これらの生物が中生代の終わりに突如絶滅したことは、生存できない急激な環境の変化があったことを物語っている。

化石は、古い時代の生物の歴史を解き明かす“カギ”であるとともに陸地の形成過程を解明する物証となる。

今回の特別展は、中生代の化石を紹介するとともに、化石を通して解明されつつある中生代の日本列島の歴史についても解説した。

200点におよぶ展示資料を通して、来館者が化石について理解を深めるとともに、ふるさとの大地の成り立ちについて考える機会にもなったと思う。また、期間中の2回の特別展講演会が、それぞれ100名を越す参加者であったことは、ぎふ中部未来博の恐竜“山東竜”に多くの人々が関心を示したことも含めて、人々の化石に対する興味・関心の高いことを物語っている。

<展示内容>

1. 化石とは

このコーナーでは、三葉虫、珪化木などを展示し、化石とはどんなものかを紹介するとともに

に、「生きている化石」のいくつかを紹介し、化石に対する興味関心を持たせるようにした。

2. 中生代の化石

アンモナイトなど、中生代のおもな化石を展示するとともに、日本で発見された恐竜の歯や骨の化石を展示し、当時の日本には恐竜が生きていたことを紹介した。

3. 手取湖の時代

手取層群中より産出した動植物化石を展示し、当時の堆積域の変遷や植物景観を紹介した。また、手取層群中から発見された恐竜の歯や足跡を展示し、湖周辺に恐竜のいたことを紹介した。

4. 植物化石からみた中生代の様子

三畳紀後期からジュラ紀前期の日本で産出した植物化石を展示するとともに、頷石型植物化石を展示し、手取型植物化石と比較しつつ、その関連について紹介した。

5. 日本列島が大陸の連続であった証拠

淡水性の化石、恐竜の足跡、オルソコーツァイト礫を展示し、中生代には手取層群堆積域(飛驒帯)が大陸の連続であったことを紹介するとともに、美濃帯との関連について解説した。また、中央にシーラカンスの模型を展示した。

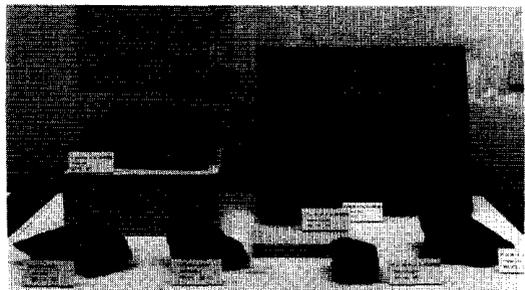
<関連事業>

1. 講演会

- ・期日 10月30日(日)
演題 「化石からみた岐阜県」
講師 名古屋大学教授 糸魚川淳二氏
- ・期日 11月20日(日)
演題 「中生代の化石」
講師 化石友の会会員 中島 公一氏

2. 県博日曜講座

- ・期日 10月23日(日)
主題 「化石を調べよう」 当館学芸員



〔資料紹介展〕

(1) 民具——農具のうつりかわり

12月13日(火)～1月29日(日)

当館が収蔵している民俗資料は、約1,400点を数える。すべて県民の皆様からのご寄贈による資料の集積である。今回の資料紹介展では、これらのなかから、米づくりにかかわる農具を中心に展示紹介した。原則として、収蔵資料のみで展示構成を試みたが、欠くべからざる資料数点と、農具理解にはもってこいの軸10点は借用して展示した。

〈展示構成〉

イ. 米とわたしたちのくらし

導入として、米とわたしたちのくらしとのかわりを紹介した。

○食卓にのぼるごはんを、白米、玄米、粳イネまでさかのぼる。

○現代の米づくりの一年

写真パネルにより、現代の機械化された米づくりを紹介。協力一鶴飼五六氏

○江戸時代の米づくりの一年

「四季農耕図」 借用 一古田甲子雄氏

ロ. 農具のうつりかわり

米づくりの一年を、春の田おこしから秋の収穫・調整まで、時間をおって展示。また、麦づくりの道具、藁製品とワラ加工用の道具もあわせ紹介した。なお、展示ケースにおさまりきらない大型農具はフローア展示とした。

- | | |
|---------------|--------|
| (1) 田おこし・代かき、 | 鍬と鋤と犁 |
| (2) 灌漑・田植 | 水車と苗籠 |
| (3) 除草・害虫防除 | 雁爪・オカメ |
| (4) 収穫 | 石包丁・鎌 |
| (5) 脱穀 | コバシ・千歯 |

- | | |
|-------------|---------|
| (6) 調整 | 箕・唐箕・千石 |
| (7) 運搬 | 田舟・大八車 |
| (8) 藁製品 | ワラジ・ミノ |
| (9) 麦づくりの農具 | 麦まき機 |

農具を並べた奥の壁面に、『岐阜県農具図』を3巻ずつ展示し、農具の理解につとめた。この図は明治10年代の県下の農具を1/20のスケールで約250点を描いたものである。岐阜県歴史資料館より9巻を借用し、展示替えをじ好評であった。

ハ. 米アレコレ

まとめとして、米・藁のさまざまな加工品を並べ、イネの多様な利用法を紹介した。

今回の資料紹介を企画するなかで、寛政12年・天保11年記銘のトオシを確認できたこと、および、この展示期間中に、除草機・稲刈機（熊沢敬二氏）、田舟・大八車（須田正治氏）の寄贈を受けたことは、大きな収穫であった。

また、アンケートの回答のなかで、農具の名前、使用時期等につき貴重な意見が寄せられた。

これからも、収蔵庫内の資料を死蔵させない企画を考えていきたい。

〈関連事業〉

○県博日曜講座 1月15日(祝)

「農具のうつりかわり」

○日曜映画会 毎日曜日

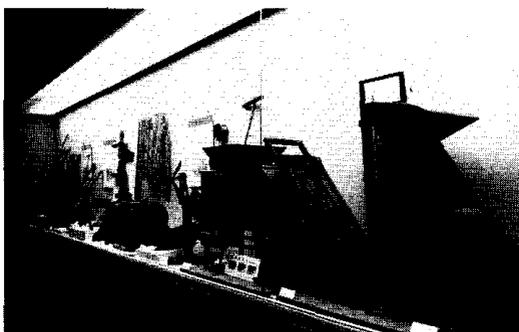
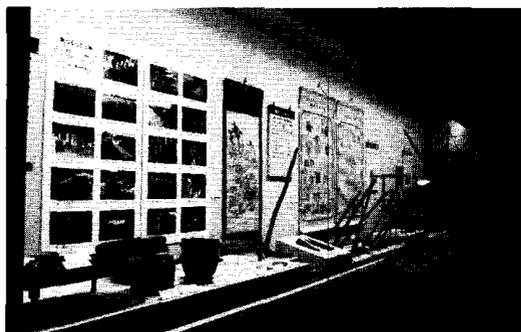
「農具のうつりかわり」スライド35コマ

○配布資料 小冊子 B5、16頁 1000部

『民具——農具のうつりかわり』

○アンケート

小冊子にとじこみ、B5、1枚のアンケートを実施し、30通の意見を得た。



(2) 人里の動物

——身近な動物に目を向けよう——

2月11日(土)～3月31日(金)

最近、家の近くでタヌキをみかけるとか、餌づけされたタヌキの話を目にする。それは、豊富な餌を求めて、人里へ姿をみせるようになったため、畑の作物や残飯がタヌキを引き寄せているようである。

このタヌキのように人里の動物と人間社会とのかかわりは大きなものがある。中には、人間の暮らしが動物たちに影響を与え生物間のバランスを変化させるまでになっている地域もみられる。

今回の資料紹介展では、家の中、田畑、家の近くの雑木林など私たちの生活と深いかかわりのある場所で生息している動物の姿と人とのかかわりを紹介した。展示を通して私たちの身近な動物を理解し、ふるさとでの自然を理解する一助となることを意図した。

<展示内容>

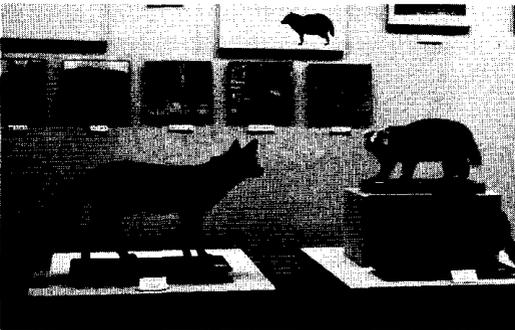
次の5コーナーに分けて、館蔵資料122種(457点)、パネル23枚、写真32枚を展示した。

1. ホニュウ類

人里を好むホニュウ動物として、キツネ、タヌキ、イタチなどの中型ホニュウ動物からアカネズミ、ヒミズなどの小型ホニュウ動物までを展示した。そして、これら多くの動物たちが、人家近くで精一杯生きている姿を剥製、パネル、写真で紹介した。また、人と動物とのかかわりにスポットをあて、帰化動物や家ネズミのすみ分けのエピソードをとりあげ紹介した。

2. 鳥類

人里によくみられる鳥、人とかかわりの深い



鳥、最近かわりつつある町の鳥といったテーマで、キジバト、トビ、ヒヨドリ、ムクドリ、ハシボソガラスなど21種33点の剥製を展示した。人間社会とのつながりを写真、パネルでわかりやすく解説した。

3. ハチュウ類、両生類

このコーナーでは、信仰や伝承で昔から私たちになじみ深いへびの仲間、トカゲの仲間、カエルの仲間を液浸標本20種と骨格標本などで紹介した。特にへびの仲間では、今年はへび年ということから県内でみられる8種のうち6種の標本を展示するとともに、白へび信仰を本などで展示解説した。

4. 軟体動物、多足類

ごく身近にみられる動物として、このコーナーを設けた。標本は、ヤスデ、ムカデ、クモ、ナメクジ、カタツムリの仲間である。

オカダンゴムシとセグロコシヒロダンゴムシの生息分布が、都市化による環境変化を知る手がかりになることを紹介した。

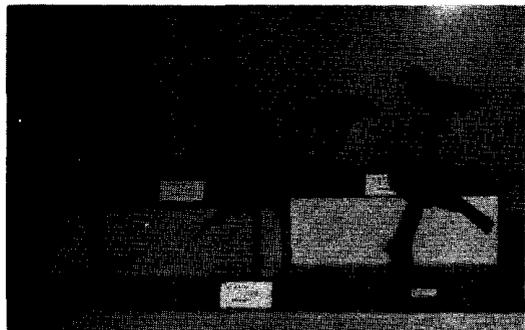
5. 昆虫類

人里でみられる身近な昆虫として、カマキリ、ゴキブリ、トンボ、チョウ、ハチ、セミ、甲虫の仲間を展示した。

昆虫もやはり人間社会と深くかかわりながら生きていることをゴキブリの変遷、アシナガバチ類の都市化による生息分布の変化、最近珍しくなった昆虫(オオムラサキ、タガメ、ゲンゴロウ、タイコウチ)などで紹介し、自然保護の大切さを強調した。

<関連事業>

3月5日に県博日曜講座で「人里の動物」を実施した。



【その他の展示】

(1)館蔵資料紹介「金華山焼」

人文展示室2郷土のやきものコーナーで、3点の金華山焼を常設展示しているが、岐阜県博物館で保管している39点の金華山焼の中から25点を選び一括紹介をした。展示期間・場所・資料名は次のようである。

- ・展示期間
昭和63年7月13日(水)～9月15日(祝)
- ・展示場所
二階図書資料室横廊下・立ケース8個使用
- ・展示資料

| 番号 | 資 料 名 | 大 き さ (高さ)×(巾) | 備 考 |
|----|--------------|-------------------|-------------|
| 1 | 鶴 飼 絵 茶 碗 | 7×12.5 | 「金華山」小判型刻印 |
| 2 | 長良川鶴飼絵図茶碗 | 5×12.5 | 〃 |
| 3 | 茶 碗 | 7×11.5 | 「金華山刻印」 |
| 4 | 赤 楽 筒 茶 碗 | 10× 8.5 | 「百曲」刻印 |
| 5 | 向 付 (6客) | 7.5× 9.0 | 「千歳」の刻印 |
| 6 | 薄 茶 茶 碗 | 7.0×12.5 | 「千歳」の刻印 |
| 7 | 茶 碗 (5客) | 5.5× 8.0 | |
| 8 | 菓 子 鉢 | 9.5×18.5 | 「千歳初窯」銘 |
| 9 | 柏葉図小鉢(5客) | 4.5×10.0 | 「千歳」刻印 |
| 10 | 重 餅 建 水 | 7.0×14.0 | 「千歳」刻印 |
| 11 | 向 付 (6客) | 6.0× 7.5 | 「千歳」刻印 |
| 12 | 徳 利 | 13.0× 7.0 | 「金華山」刻印 |
| 13 | 徳 利 (2本) | 14.0× 8.0 | 「金華山」小判型刻印 |
| 14 | 菓 子 皿 | 5.5×18.0 | 「金華山」刻印 |
| 15 | 茶 碗 | 9.0×11.0 | 「旭水造」銘 |
| 16 | 〃 | 8.0×13.0 | 「金華山」小判型刻印 |
| 17 | 〃 | 7.5×11.5 | 「金華山」銘 |
| 18 | 〃 | 7.5×12.0 | 「金華山」刻印 |
| 19 | 御 本 茶 碗 | 6.5×11.0 | 「金華山」刻印 |
| 20 | 杯 その1・その2 | 7.2・ 7.0 | 「金華山」刻印 |
| 21 | 小 皿 19 枚 | 10.0 | 「金華山」小判型刻印 |
| 22 | 絵 付 茶 碗 | 8.0×10.5 | 「金華山」刻印 |
| 23 | 巖上の松図抹茶茶碗 | 7.5×13.0 | 「金華山」「旭水」刻印 |
| 24 | 楓 絵 水 指 (蓋付) | 14.0×11.0 | 「金華山」刻印 |
| 25 | 茶 入 れ(象牙蓋付) | 7.0× 8.0 | 「金華山」刻印 |

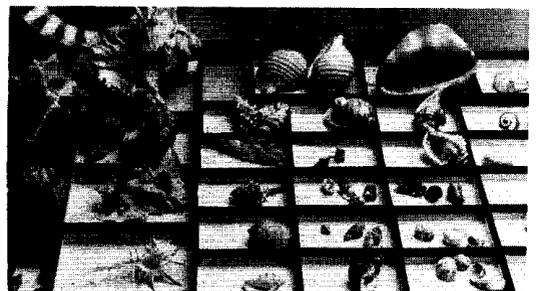
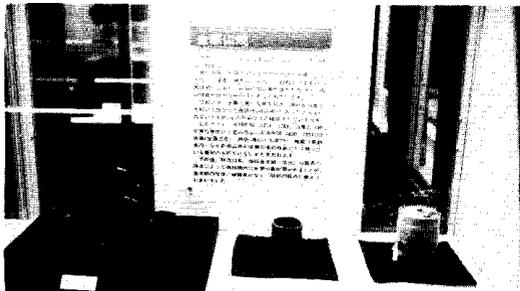
(2)新館蔵資料紹介「海産貝類」

和歌山市の会社員の方から、岐阜県は海辺から離れたところにあつて貝に触れる機会が少ないので、長年採集した海産貝類を活用していただきたいと寄贈の申し出があつた。

和歌山近海を主体とした1000種ほどの海産貝類である。

- ・展示期間
平成元年1月10日(火)～4月9日(日)
- ・展示場所
二階図書資料室横廊下・立ケース4個使用
- ・展示資料の一部

| 目 | 科 | 展 示 資 料 名 |
|-----------|------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 原 始 腹 足 | ニシキウスガイ | サラサバテイラ・ベニシリダカガイ・ムラサキウスガイ・ヘソアキクボガイ・ハリエビスガイ・イボキザゴなど |
| | | |
| 中 腹 足 | フジツガイ ヤツシロガイ タ マ ガ イ トウカムリガイ | ホラガイ・シマイボホラ ヤツシロガイ・カスリミヤシロガイ フロガイ・フロガイダマン マンボウガイ・ヒナヅルガイなど |
| | | |
| | | |
| 新 腹 足 | イトマキボラ | ホソニシ・コナガエシ・チトセボラ・ヘソアキツノマタガイなど |
| | | |
| | エ ゾ バ イ | クビレバイ・エゾボラ オガイ・チチミエゾボラなど |
| | | |
| ア ク キ ガ イ | オニカゴメガイ・アカニシ クロトケホネガイ・カラスキガイ カザリガンセキボラ レイシガイダマンなど | |
| | | |
| | | |
| タケノコガイ | フジタギリガイ・タケノコガイ ウシノツノガイ リュウキュウタケノコガイなど | |
| | | |
| ウグイスガイ | ウミギクガイ | ウミギクガイ ショウジョウガイなど |
| | | |
| イ タ ヤ ガ イ | ヒヨクガイ・ハナイタヤガイ アズマニシキガイ・キンチャクガイなど | |
| | | |
| ウミタケガイ | ハマユウガイ | ツツガキなど |



〔調査研究・資料収集活動〕

—自然部門—

動物分野

◎白山の調査及び資料収集

大白川を中心に白山東斜面を調査し、そこでみられる動物の調査及び資料収集を行った。

〈収集した主な標本〉

トガリネズミ、スミスネズミ、ヒメネズミ、アカネズミ、ハクサンマイマイ、ベニヒカゲ、クモマベニヒカゲ、ヒメシジミ、ハクサンクロナガオサムシ、チビマルクビゴミムシ、ハクサンヒメハナカミキリ、シコクヒメコブハナカミキリ、エゾトラカミキリ、カンボウトラカミキリ、ハネナガクモマヒナバタなど。

◎旧徳山村の調査及び資料収集

前年度に引き続き旧徳山村の小動物及び昆虫の調査、資料収集を行った。3か年の調査研究の終了する本年度末には、『旧徳山村地域動植物調査報告書』に発表。

◎乗鞍岳の昆虫調査

乗鞍岳高山帯の昆虫類の調査、資料収集を行った。調査結果の一部を研究報告書に発表。

◎県内鳥類調査

県内で見られる鳥類の生態調査を行い、鳥類のスライド30点を収蔵した。

植物分野

◎白山植物分布調査及び資料収集

ワリ谷、白水湖周辺、大倉山～弥陀ヶ原の植生調査を行った。資料収集は主に大倉山付近までとし、ブナ林及びブナ林床下の植物の生熊写真に重点を置いた。

◎旧徳山村調査及び資料収集

3か年計画の最終年度にあたり、冠峠、冠山を中心に植物分布の調査及び資料収集を行った。

現在まで当館学芸員により収集収蔵されている標本を調査すると同時に、他機関に収蔵されている標本の調査研究を行い、その成果を『旧徳山村地域動植物調査報告書』に発表。

◎帰化植物調査

美濃地区の帰化植物資料収集を行った。『岐阜県帰化植物目録』(1987)以降、新たに県内帰化が確認された一部を研究報告書に発表。

◎北アルプス植物調査

笠ヶ岳植物調査の補充及び白山高山帯との比較調査のため実施したが、悪天候で十分な調査ができなかった。

◎木曾川水生植物資料収集

羽鳥郡笠松町木曾川トンボ池の水生植物について調査と資料収集を行った。

地学分野

◎大野郡荘川村尾上郷の中生代白亜紀手取層群の化石調査及び収集

この地域の植物化石の調査は、木村達明東京学芸大学教授らの指導により以前から実施してきた。最近、石川県・福井県のこの手取層群中より恐竜の歯・骨・足跡の化石が発見された。

特別展「中生代の化石」の資料収集もかね、本年度は動物化石についての調査、収集を行った。浜田隆士東京大学教授の指導で、8月21日～23日に実施し、動物化石77点を収集した。

◎白山の自然調査

白山の自然の調査の1年目として、白山山系の稜線部に存在する池の成因についての調査を計画した。予定した池の調査は、地形が険しく、当初の目的は達成できなかった。しかし、その調査池への途中で地形的に興味ある事象を発見し調査を行った。この結果は、来年度以降実施する池の成因調査の上で重要な手がかりとなる。本年度の成果は、鹿野勘次、杉山政広両氏との共同研究として研究報告書に発表。

◎旧徳山村磯谷地区の礫岩層の調査

磯谷地区の調査は、昨年度の予備調査の結果をふまえて、源流付近に分布する礫岩層と、中流部の枝沢に存在する石炭層について調査を行った。今後詳しく調査する必要がある。



▲ 化石の採集

| 分野 | 館 蔵 | | | | 借用 | 寄託 | 計 |
|-------|--------|-----|--------------|------------|----|----|--------|
| | 実物 | 複製 | 移管・自作 その他 | 寄贈 (内数) | | | |
| 動物 | 29,956 | 16 | 164 | (16,579) | 15 | 0 | 30,151 |
| 植物 | 10,542 | 35 | 190 | (6,300) | 0 | 0 | 10,767 |
| 岩石・鉱物 | 1,995 | 5 | 73 | (516) | 20 | 3 | 2,096 |
| 化石 | 1,930 | 31 | 20 | (1,068) | 47 | 46 | 2,074 |
| その他 | 58 | 22 | 168 | (16) | 0 | 0 | 248 |
| 計 | 44,481 | 109 | 615 | (24,479) | 82 | 49 | 45,336 |

資料寄贈者芳名一覧 (敬称略・順不同)

| 資料名 | 点数 | 芳名 | 資料名 | 点数 | 芳名 | 資料名 | 点数 | 芳名 |
|---------|----|--------------|---------|-----|--------------------------------|--------------|----------|-------------|
| ヒミズ | 1 | 加藤 寿朗 | トラツグミ | 1 | 小林すみゑ | 海ガメ | 1 | 伊藤 福男 |
| ヒミズ | 1 | 亀山 力造 | トラツグミ | 1 | 荒井 浩 | 海産貝 | 約1000 | 和歌山市 会社員 |
| ヒミズ他 | 2 | 中野 繁 | ツグミ | 1 | 石原 麻紀 | ヤマカガシ | 1 | 渡辺 政光 |
| アライグマ | 2 | 梶浦 敬一 | ルリビタキ | 1 | 亀山 力造 | カゲロウソデガイ他 | 6 | 宮崎 惇 |
| ホンドタヌキ | 1 | 大沢 真美 | キレンジャク | 1 | 坪内 清三 | オオサンショウウオ | 1 | 金古 弘之 |
| ホンドタヌキ | 1 | 小山内 勁 | ミサゴ | 1 | 伊奈波所 伊奈波所 中島 昌人 土屋 正勝 | トウキョウサンショウウオ | 1 | 松井 清高 |
| ホンドタヌキ | 1 | 長尾 久夫 | カワラヒワ | 1 | 宮崎 惇 | ヤモリ | 1 | 亀山 幸子 |
| ホンドタヌキ | 1 | 猿渡 鎮 | ムクドリ | 1 | 宮崎 惇 | ヤドカリ他 | 2 | 河野 秀哉 |
| ホンドタヌキ | 1 | 後藤 明 | アブラコウモリ | 1 | 古田 幸枝 | ズアカムカデ | 1 | 森 忠司 |
| ホンドタヌキ | 1 | 佐藤 佳子 | アブラコウモリ | 1 | 平野 友重 | クチヒロカイマン | 1 | 堀 敏之 |
| ホンドタヌキ | 1 | 水谷 治 | カワセミ | 1 | 武井 薫 | ハナレミジン | 3 | 大垣内 宏 |
| ホンドタヌキ | 1 | 今井 雅巳 | キセキレイ | 1 | 吉川 錦聖 | ヤマタニシ | 1000 | 二村 延夫 |
| コウベモグラ | 1 | 宮崎 惇 | ジョウビタキ他 | 4 | 大塚 之稔 | キダチコンギク他 | 25 | 広田 艶子 |
| ヌートリア | 1 | 小石 文夫 | ヒクイナ | 1 | 小林 靖明 | 植物標本 | 200 | 加藤 茂 |
| ヌートリア | 1 | 井藤 修正 | アオゲラ | 1 | 平野 友重 | 中生代植物化石 | 31 | 木村 達明 |
| ハクビシン | 1 | 市村 幹三 | アオゲラ | 1 | 岩原 由光 | フズリナ化石他 | 17 | 種蔵 泰一 |
| ホンドイタチ | 1 | 伊佐治要衛 | ニホンキジ | 1 | 石川みえこ | フズリナ化石 | 1 | 宮崎 惇 |
| ホンドイタチ | 1 | 成瀬 亮司 | キジバト | 1 | 郡 貞治 | 砂鉄 | 2 ケース | 成木 一彦 |
| アナグマ | 1 | 酒向 保一 | ハシブトガラス | 1 | 今津 好行 | 魚の化石 | 1 | 広江 章 |
| ホンドキツネ | 1 | 千葉 克彦 | カモ | 1 | 加藤 勝利 | マンモスの牙 | 1 | 野中 八郎 |
| ホンドキツネ | 1 | 金森 昭至 | ヒメシジミ | 2 | 西村 正賢 | | | |
| ムササビ | 1 | 梶浦 敬一 | 日本産チョウ他 | 160 | 西村 正賢 | | | |
| イノシシ(仔) | 7 | 天池 正 | タイ産昆虫 | 700 | 後藤 和晴 | | | |
| ホンシュウジカ | 2 | 田口 幹夫 | アユカケ | 1 | 中田 宇元 | | | |
| ニホンザル | 1 | 蒲 丈夫 | アユカケ | 3 | 後藤 和晴 | | | |
| ヤマシギ | 1 | 石崎 大介 | カジカ | 1 | 後藤 正・宮子 | | | |
| ヤマシギ | 1 | 伊奈波所 伊奈波所 | ウキゴリ他 | 10 | 高木 治一 | | | |
| ハイタカ | 1 | 青山 潔 | タモロコ他 | 90 | 中野 繁 | | | |
| スズメ | 1 | 大竹 志保 | ティラピア | 30 | 今津 好行 | | | |
| スズメ | 2 | 山田 良司 | 海ガメ | 1 | | | | |



—人文部門—

| 分野 | | 館 蔵 | | | | 借 用 | 寄 託 | 計 |
|---------|--|-------|-----|-----|-------|-------|-------|-------|
| | | 実 物 | 複 製 | その他 | (寄贈) | | | |
| 考 古 | | 1,987 | 166 | 52 | 1,791 | 601 | 186 | 2,992 |
| 歴 史 | | 1,064 | 31 | 122 | 1,051 | 27 | 152 | 1,396 |
| 民 俗 | | 1,989 | 2 | 9 | 1,989 | 213 | 19 | 2,232 |
| 美 術・工 芸 | | 225 | 17 | 37 | 170 | 271 | 1,156 | 1,706 |
| そ の 他 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 計 | | 5,265 | 216 | 220 | 5,001 | 1,112 | 1,514 | 8,327 |

複製には模型・ジオラマを含む(平成元年3月31日現在)

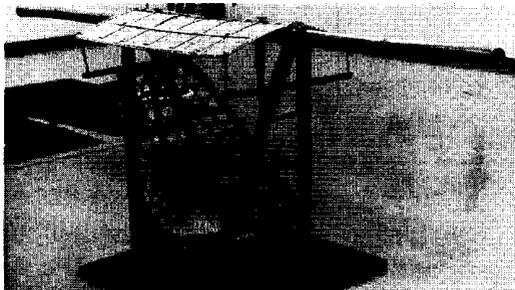
1. 資料寄贈者芳名一覧(敬称略・順不同)

| 資 料 名 | 点数 | 芳 名 | 資 料 名 | 点数 | 芳 名 | 資 料 名 | 点数 | 芳 名 |
|------------|----|----------|-------------|----|---------|--------|----|-----------|
| 馬 鞍 | 1 | 亀井 鉄治 | 一斗 マ ス | 1 | 金子 郁雄 | ワラ細工宝船 | 3 | 亀山 輝雄 |
| 大 礼 服 | 一式 | 村井 由一 | 一 升 マ ス | 1 | " | 縄 | 1 | 県庁・長森老人会 |
| 未来博特別記念入場券 | 3 | 沢村 育栄 | 田 舟 | 1 | 須田 正治 | " | 2 | 後藤 由美子 |
| レ ベ ル | 1 | 高島 利次 | 大 八 車 荷 台 | 1 | " | " | 1 | 角竹 弘 |
| 薬 神 輿 | 1 | 本巣町木倉町内会 | 未 来 博 参 加 証 | 1 | 曾我 敏男 | " | 1 | 足立 正行 |
| 鎌倉踊りホロ | 2 | 揖斐郡坂内村川上 | 水 車 歯 車 | 1 | " | " | 2 | 若原 和男 |
| カ ラ グ ワ | 1 | 大野 克彦 | 盆 - 茄子の馬 | 1 | " | " | 1 | 北川 邦王 |
| サ キ グ ワ | 1 | " | 盆 - 迎 火 | 1 | " | " | 1 | ダットマス |
| カマス(モミ用) | 2 | " | 麻 木 | 2束 | " | " | 1 | サークル® |
| カマス(肥料用) | 2 | " | 今尾左義長資料 | 35 | 平田町今尾万町 | " | 1 | (有)油 信 |
| 浄 瑠 璃 本 | 10 | " | 節分 鬼の札 | 34 | 古田 守男 | " | 1 | 森 電 機 |
| 浄 瑠 璃 用 袴 | 一式 | " | 節分 鬼の札 | 2 | 伊藤 順造 | " | 1 | 喫茶ハーフ&ハーフ |
| 稲刈機 | 1 | 熊沢 敬二 | 神田祭粥占の竹 | 4 | 大野町上磯区 | " | 6 | 大野 仁久 |
| 草取機 | 1 | " | 筒 粥 の 竹 | 35 | 大須徳林寺 | " | 2 | 三田村照明 |
| 竹皮ワラジ | 2 | " | 田の神おそなえ | 1 | 服部 公文 | " | 4 | 今井 太郎 |
| アイロン他古民具 | 31 | 川瀬 善忠 | 唐 箕 | 1 | 国光 正宏 | | | |

2 新収蔵資料紹介

・山駕籠

庶民の乗物として道中や山道で用いられたもので、竹で円く編んだ底に、丸竹を釣り手とし、網代の屋根を掛けただけの駕籠。かつて箱根越えに用いたものを複製したものである。



3. 調査研究

考古分野

- ・平成元年春の特別展「濃飛の古墳時代」にむけての調査研究。図録として発表。

歴史分野

- ・中山道展開催後の継続研究として「和宮降嫁と美濃の宿駅」を調査研究報告に発表。

美術・工芸分野

- ・常設展充実にもつれて調査し、「幕末の画人三尾暁峰とその門下生」を調査研究報告に発表。

民俗分野

- ・「美濃の民俗一岐阜県博物館民俗分野の研究課題」を調査研究報告に発表。
県下年中行事の調査と資料収集。

〔教育普及活動〕

1. 概略

本年度も、例年通り地道に教育普及活動に努めた。

広報については、本年度は、県内はもちろん県外への資料配布箇所も増やし、催しものの新聞PRも強化した。1989年の県民手帳の毎月の写真にも当館資料が掲載され、雑誌等への情報提供機会も増えている。今のところ、社会全体

の情報量が大幅に増加しており、目に見えるような成果は上がっていないが、さらに魅力的な企画を打ち出し、より人々の耳目にとまるようPRに努めたい。

催しものについては、特別展講演会や新しい試みの写生会などが好評で、参加者人数が増加している。今後も企画に工夫をこらしたい。

2. 移動展

「ふるさとの植物・動物たち」というテーマで、本巢郡の根尾村・真正町で実施した。展示資料は、昨年度と同じく動物・植物・昆虫・魚である。



- 根尾村文化センター 7.27(水)～8.7(日)
 - ・入場者数 約700人
 - ・ふるさと教室 7.27(水)「ふる里の植物」
7.28(木)「ふる里の動物と魚」
- 真正中央公民館 8.10(水)～8.22(月)
 - ・入場者数 約1,308人
 - ・ふるさと教室 8.12(金)「ふるさとの植物」
8.18(木)「ふるさとの昆虫」

両会場とも、ふだんなかなか見られない植物の標本や動物のはく製を見て、子どもたちは好奇の目を輝かしていた。また、真正会場の、夜間野外で虫を採集した昆虫教室は好評であった。

3. 資料貸出し

他館での展示会、研究会、学校での教材等に貸出した主な資料。

〈人文〉

- 岐阜市歴史博物館 (5.24～7.9)
 - ・十六銅鐸 1口
- 大垣市歴史民俗資料館
 - ・十六銅鐸 1口 (7.15～9.22)
 - ・円満寺古墳出土 (9.16～11.26)
三角縁波文帯三神三獣鏡等 3面
- 羽島市役所 (7.23～8.26)
 - ・円空仏聖観音立像 1体
- 1988世界人形フェスティバル
(名古屋市教育委員会) (7.25～8.6)
 - ・葉津文楽人形等 15点
- 岐阜県陶磁資料館 (9.20～元3.31)
 - ・青織部燭台等 2点

○埼玉県立博物館 (10.18～12.9)

- ・円空仏聖観音立像他 2体

〈自然〉

- 各務原市歴史民俗資料館 (6.17～7.25)
 - ・ノウサギ、ホンDOIタチ、ヌートリア、
キツネ、タヌキ、アナグマ等 7点
- 神奈川県立博物館 (7.5～9.21)
 - ・アライグマ、ヌートリア、
チョウセンイタチ、ホンDOIタチ、
ヌートリア頭骨等 6点
- 郡上県事務所 (7.13～7.25)
 - ・オシドリ、バン等 3点
- 神戸町中央公民館 (9.10～10.24)
 - ・湿原の植物及び昆虫 200点

4. 博物館実習生指導 (7月31日～8月7日)

岐阜女子大学の学生2名、日本大学の学生1名、橘女子大学の学生1名、都留文科大学の学生1名の計5名を実習指導した。

5. 昭和63年度 刊行物一覧

| 名 称 | 発行年月日 | 版・頁 | 部 数 | 備 考 |
|--------------------|----------|----------|--------|---------|
| 岐阜県博物館だより 第35号 | 63.4.1 | B 5 4頁 | 2,500 | |
| 〃 第36号 | 63.7.1 | 〃 〃 | 〃 | |
| 〃 第37号 | 63.10.1 | 〃 〃 | 〃 | |
| 岐阜県博物館報 第11号 | 63.4.1 | B 5 31頁 | 1,500 | |
| 岐阜県博物館調査研究報告 第10号 | 元.3.31 | B 5 52頁 | 750 | |
| 昭和63年度岐阜県博物館催しもの案内 | 63.4.1 | B 4 表裏 | 25,000 | |
| | | B 3 表 | 10,000 | |
| 旧徳山村地域動植物調査報告書 | 元.3.31 | B 5 115頁 | 500 | |
| 特別展図録・パンフレット | | | | (友の会増刷) |
| ふるさとの湿原 (パンフレット) | 63.4.27 | A 5 15頁 | 12,000 | |
| 中山道—美濃十六宿 (図録) | 63.7.13 | B 5 65頁 | 600 | 600 |
| 中生代の化石 (パンフレット) | 63.10.12 | B 5 10頁 | 16,000 | |
| 特別展ポスター・リーフレット・ちらし | | | | |
| ふるさとの湿原 (ポスター) | 63.4.1 | B 2 | 1,000 | |
| 〃 (ちらし) | 63.4.1 | B 5 | 5,000 | |
| 中山道—美濃十六宿 (ポスター) | 63.6.4 | B 2 | 1,500 | |
| 〃 (ちらし) | 63.6.4 | B 5 | 3,000 | |
| 〃 (リーフレット) | 63.7.10 | B 5 | 8,000 | |
| 中生代の化石 (ポスター) | 63.9.20 | B 2 | 1,000 | |
| 〃 (ちらし) | 63.9.20 | B 5 | 5,000 | |
| 資料紹介展パンフレット | | | | |
| 民具—農具のうつりかわり (パンフ) | 63.12.13 | B 5 16頁 | 1,000 | |
| 人里の動物 (パンフレット) | 元.2.11 | B 5 14頁 | 2,200 | |

6. 図書資料室

図書資料室では約17,000冊の本を開架式で一般来館者の利用に供している。購入による資料収集の他に、他館との資料交換、寄贈等により年々その図書は充実してきている。

本年度の特筆すべき寄贈図書として、岐阜県

教育委員会文化課から移管された全国の埋蔵文化財調査報告書(4,172冊)と、岐阜県博物館友の会からの「ふるさと日本列島」(全8巻)・「読売年鑑1989」がある。図書利用希望の方は図書資料室職員にお申し出ください。

7. 視聴覚資料

本年度も郷土学習室ビデオスタディコーナーでビデオ放映を行った。また、団体来館者などに講堂・研修室で16mmフィルム・スライドなどの上映を行った。

また、当館紹介の16mmフィルムが9年ぶりに

再撮影され、「わたしたちの岐阜県博物館」の題で8月から団体入館者などに上映した。

寄贈資料として徳川美術館からの「徳川美術館」(16mm・ビデオ)、笠松町からの「かさまつ100年——そして未来へ」(ビデオ)がある。

8. 特別展期間中の来館者へのアンケート

中部未来博'88記念展「中山道—美濃十六宿」開催中(8/28~9/15)と特別展「中生代の化石」開催中(10/12~11/25)に、来館者対象に、来館

のきっかけ・当館見学の感想についてのアンケート調査を行った。530人から回答を得、多くの貴重な示唆を受けることができた。

〔図書資料寄贈者芳名一覽〕

(昭和63年4月1日～

平成元年3月31日)

〔博物館関係〕

国立民族学博物館
国立歴史民俗博物館
国立科学博物館、附属自然植物園
国立国際美術館
東京国立博物館
東京国立近代美術館
京都国立博物館
憲政記念館
岐阜県美術館
岐阜県歴史資料館
岐阜県立図書館
岐阜市科学館
岐阜市歴史博物館
各務原市歴史民俗資料館
内藤くすり記念博物館
羽島市歴史民俗資料館
大垣城郷土博物館
大垣市郷土館
大垣市歴史民俗資料館
瑞浪陶磁資料館
瑞浪市化石博物館
高山市郷土館
飛騨自然博物館
飛騨・北アルプス自然文化センター
アイヌ民俗博物館
釧路市立博物館
小樽市博物館
札幌芸術の森
滝川市美術自然史館
苫小牧市博物館
根室市博物館開設準備室
ひがし大雪博物館
北海道開拓記念館
北海道開拓の村
穂別町立博物館
青森県立郷土館
八戸市博物館
岩手県立農業博物館
岩手県立博物館
仙台市博物館
仙台市歴史民俗資料館
東北陶磁文化館
東北歴史資料館
鹽竈神社博物館
秋田県立博物館
秋田大学鉱山学部附属鉱業博物館
山形県立博物館
会津民俗館
致道博物館
福島県立博物館
福島市児童文化センター
茨城県近代美術館

茨城県歴史館
土浦市博物館
日立市郷土博物館
栃木県立博物館
小山市立博物館
群馬県立近代美術館
群馬県立歴史博物館
浦和市郷土博物館
埼玉県立さきたま資料館
埼玉県立自然史博物館
埼玉県立博物館
埼玉県立民俗文化センター
埼玉県立歴史資料館
土田市立郷土博物館
市立市川考古博物館
君津市立久留里城址資料館
館山市立博物館
千葉県立安房博物館
千葉県立大根博物館
千葉県立上総博物館
千葉県立総南博物館
千葉県立房総のむら
千葉県立房総風土記の丘
千葉市加曾利貝塚博物館
船橋市郷土資料館
足立区立郷土博物館
大田区立郷土博物館
家具の博物館
紙の博物館
サントリー美術館
品川区立品川歴史館
渋谷区立松濤美術館
立川市立歴史民俗資料館
たばこと塩の博物館
東京都高尾自然科学館
八王子市立郷土資料館
府中市郷土の森
福生市郷土資料室
町田市立博物館
明葉資料館
郵政省通信博物館
国学院大学文学部考古学資料室
国際基督教大学博物館
湯浅八郎記念館
東京農業大学農業資料室
明治大学商品陳列館
神奈川県立博物館
神奈川県立自然保護センター
神奈川県立金沢文庫
川崎市青年科学館
川崎市産業文化会館
茅ヶ崎市文化資料館
根岸競馬記念公苑馬の博物館
箱根町立大涌谷自然科学館
平塚市博物館
船の科学館

横須賀市自然博物館・人文博物館
横須賀市美術館開設準備室
横浜海洋科学博物館
長岡市立科学博物館
新潟県美術博物館
富山市科学文化センター
石川県白山自然保護センター
石川県立美術館
石川県立歴史博物館
小松市立博物館
福井県立博物館
福井県立若狭歴史民俗資料館
福井市立郷土自然科学博物館
福井市立郷土歴史博物館
山梨県立考古博物館
山梨県立美術館
飯田市美術館
上田市立博物館
大町山岳博物館
信濃町立野尻湖博物館
長野市立博物館
松本市立博物館
上原仏教美術館
静岡市立登呂博物館
東海大学海洋科学博物館
東海大学自然史博物館
沼津市明治史料館
沼津市歴史民俗資料館
浜松市博物館
富士市立博物館
愛知県陶磁資料館
愛知県文化会館
熱田神宮宝物館
一宮市博物館
伊良湖自然科学博物館
杉本美術館
瀬戸市歴史民俗資料館
豊橋市自然史博物館
豊橋市地下資源館
豊橋市美術博物館
日本モンキーセンター
名古屋市博物館
名古屋市科学館
名古屋大学総合研究資料館
南山大学人類学博物館
半田市立博物館
博物館明治村
尾西市歴史民俗資料館
三好町立歴史民俗資料館
リトルワールド
海の博物館
桑名市博物館
神宮徴古館
真珠博物館
藤原岳自然科学館
三重県立博物館

滋賀県立近江風土記の丘資料館
滋賀県立琵琶湖文化館
市立長浜城歴史博物館
彦根城博物館
京都府立総合資料館
京都市丹後郷土資料館
大阪市立博物館
大阪市立自然史博物館
大阪市立東洋陶磁美術館
大阪市立電気科学館
大阪人権資料館
堺市博物館
東大阪市立郷土博物館
伊丹市立博物館
神戸市立博物館
辰馬考古資料館
兵庫県立歴史博物館
天理大学附属天理参考館
奈良県立美術館
奈良県立民俗博物館
大和文華館
和歌山県立自然博物館
和歌山県立博物館
和歌山市立博物館
鳥取県立博物館
岡山県立美術館
岡山市立オリエン特美術館
倉敷市立自然史博物館
津山郷土博物館
津山洋学資料館
備前長船博物館
巖島神社宝物館
新市町立歴史民俗資料館
日本はきもの博物館
広島県立歴史民俗資料館
広島市安佐動物公園
秋吉台科学博物館
山口県立博物館
徳島県博物館
愛媛県立博物館
瀬戸内海歴史民俗資料館
松山市立子規記念博物館
北九州市立考古博物館
北九州市立自然史博物館
北九州市児童文化科学館
鞍手町歴史民俗資料館
福岡市博物館建設準備室
佐賀県立博物館
長崎県立美術館
大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
別府大学附属博物館
宮崎県総合博物館
鹿児島県立博物館
鹿児島県歴史資料センター黎明館

鹿児島市立美術館
〔博物館協会〕
日本博物館協会
全日本博物館学会
全国科学博物館協議会
埼玉県博物館連絡協議会
静岡県博物館協会
広島市動物園協会
〔役所関係〕
羽島市役所
関市役所
可見市役所
土岐市役所
中津川市役所
川島町役場
平田町役場
関ヶ原町役場
谷汲村役場
春日村役場
高富町役場
大和町役場
和良村役場
御嵩町役場
岩村町役場
萩原町役場
古川町役場
岐阜市民会館
岐阜市文化センター
大垣市文化会館
美濃加茂市文化会館
多治見市文化会館
川島町民会館
〔教育委員会関係〕
岐阜県教育委員会
岐阜県教育センター
岐阜県同和教育協議会
岐阜県教育委員会文化課
岐阜県小中学校校長会
岐阜県PTA連合会
岐阜市教育委員会
大垣市教育委員会
関市教育委員会
美濃加茂市教育委員会
可見市教育委員会
多治見市教育委員会
高山市教育委員会
北方町教育委員会
巣南町教育委員会
洞戸村教育委員会
大和町教育委員会
白鳥町教育委員会
和良村教育委員会
岩村町教育委員会

小坂町教育委員会
古川町教育委員会
北海道教育委員会
佐野市教育委員会
神奈川県教育委員会
相模原市教育委員会
東京都教育委員会
大島町教育委員会
新島本村教育委員会
葛飾区教育委員会
世田谷区教育委員会
韭崎市教育委員会
安城市教育委員会
稲沢市教育委員会
岡崎市教育委員会
春日井市教育委員会
幸田町教育委員会
佐屋町教育委員会
名古屋市教育委員会
三好町教育委員会
三重県教育委員会
龜山市教育委員会
四日市市教育委員会
尼崎市教育委員会
泉佐野市教育委員会
西紀・丹南町教育委員会
豊中市教育委員会
樺原市教育委員会
和歌山県教育委員会
松山市教育委員会
長崎県教育委員会
〔学校関係〕
岐阜市立藍川中学校
岐山高等学校
岐阜第一女子高等学校
羽島高等学校
不破高等学校
関商工高等学校
郡上高等学校
郡上北高等学校
加茂高等学校
高校地理研究会
岐阜県高等学校理科助手研究会
岐阜県高等学校生物教育研究会
岐阜県高等学校定時制・通信制教育研究会
岐阜大学教育学部
岐阜女子短期大学
岐阜経済大学地域経済研究所
聖徳学園短期大学
東海女子大学
群馬県高等学校教育研究会生物部会
図書館情報大学
お茶の水女子大学学芸員課程
学習院

国学院大学博物館学研究室
日本大学文理学部自然科学研究所
明治大学学芸員課程
信州大学人文学部比較文化論研究室
静岡大学理学部地球科学教室
愛知大学文学会
市邨学園短期大学人文科学研究室
名古屋経済大学・市邨学園短期大学
自然科学研究会
名古屋大学文学部美学美術史研究室
同志社大学博物館学芸員課程
佛教大学歴史研究所
関西大学考古学等資料室
島根大学山陰地域研究総合センター
山口大学人文学部比較文化論研究室

〔研究機関、出版社、その他〕

奈良国立文化財研究所—飛鳥資料館
国立教育会館社会教育研究所
宮内庁書陵部
宮内庁正倉院事務所
文化庁
極楽寺宗教文化研究所
禪宗地方史調査会
北網圏北見文化センター
青森県埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財センター
神奈川県埋蔵文化財センター
静岡県埋蔵文化財調査研究所
滋賀県埋蔵文化財センター
福岡市埋蔵文化財センター
帝塚山考古学研究所
広島県草戸千軒町遺跡調査研究所
葛飾城址調査会
東海地理研究会
東レ科学振興財団
京都服飾文化振興財団
行動と文化研究会
滋賀民俗学会
民具製作技術保存会
日本環境協会
平岡環境科学研究所
活断層研究会
地質調査所
日本実生研究会
東京貝類同好会
日本イヌワシ研究会
三重動物学会
観光資源保護財団
名古屋営林局
名古屋植物防疫所
京都市文化観光局
黒川古文化研究所
国画会
古代学協会
多摩市文化振興財団

日展
日本美術刀剣保存会
美術倶楽部
ポーラ伝統文化振興財団
ポーラ文化研究所
横浜市美術振興財団
徳島県企画調整部文化の森建設事務所
局
岐阜県観光連盟
岐阜県企画部統計課
岐阜県郷土資料研究会
岐阜県公害研究所
岐阜県工業技術センター
岐阜県工業試験場
岐阜県工芸試験場
岐阜県昆虫同好会
岐阜県昆虫分布研究会
岐阜県情報処理教育センター
岐阜県植物研究会
岐阜県水産試験場
岐阜県デザイン振興会
岐阜県農業技術教育センター
岐阜県農業総合研究センター
岐阜県哺乳動物調査研究会
岐阜県歴史資料保存会
日本野鳥の会岐阜県支部
日本野鳥の会岐阜支部ヒグブロック
事務局
御嶽少年自然の家
土岐少年自然の家
伊自良青少年の家
関ヶ原青少年自然の家
岐阜県文化財保護協会
養老町文化財保護協会
揖斐谷の自然と歴史と文化を語る集
い
郡上史談会
地域社会研究会
東氏文化顕彰会
中山道加納宿文化保存会
美濃民俗文化の会
飛騨郷土学会
書道心画院
飛騨高山博 高山市イベント実行委
員会
霊山顕彰会
日本の竹を守る会岐阜支部
日本生命財団
中信美術奨励基金
愛石界
銀座長州屋
能平製作所
埼玉会館
サントリー株式会社
西武ヒサ
七十七銀行

建設省多治見工事事務所
垂井日之出印刷所
岐阜新聞社
岐阜新聞社中濃総局
月刊西美濃わが街社
北白川書房
TAPタウン情報ぎふ
ほっちぼっち出版部
びあ株式会社
東京書籍株式会社
岩波書店
啓林館
東京美術
日本美術出版
文一総合出版
芸術新聞社
日本美術刀剣新聞社
海外学人日刊社
今日郵政月刊社

〔個人〕

安藤 賢三
石田 鎌一
小野木 三郎
片山 一郎
加藤 勝利
加藤 進
亀山 喜三
粥川 雅弘
北村 正行
千賀 重義
玉井 武博
中村 若枝
花ヶ前 盛明
福田 節郎
藤吉 稔
前田 喜四雄
前田 保夫
松田 岩夫
間宮 光治
丸山 幸太郎
宮崎 憲二
宮崎 惇

〔利用状況〕

1. 入館者数

今年度は、入館者総数60,018人、前年に比べ約10%の減少で、ぎふ中部未来博の影響が大きかった。

また、開館日数は298日であり、1日平均の入館者は201人であった。

月別の入館者数は右表のとおりである。1日の入館者が最も多い日は4月27日で1,708人を数えた。

団体入館者をみると、213団体19,561人で入館者総数の約33%にのぼり、月別では10月が最も多く、団体入館者総数の約34%を占めている。

これを県内、県外別にみると、県内が139団体11,879人で全体の約61%を占め、県外では愛知県が圧倒的に多く、71団体7,552人で全体の約39%を占めている。

| 月 | 小中生 | 高大生 | 一 般 | 計 | 開館 日数 | 1日 平均 |
|----|--------|-------|--------|--------|----------|----------|
| | 人 | 人 | 人 | 人 | 日 | 人 |
| 4 | 2,310 | 1,434 | 2,933 | 6,677 | 26 | 257 |
| 5 | 3,506 | 1,363 | 4,538 | 9,407 | 26 | 362 |
| 6 | 879 | 70 | 2,049 | 2,998 | 20 | 150 |
| 7 | 804 | 160 | 2,457 | 3,421 | 27 | 127 |
| 8 | 1,826 | 218 | 2,818 | 4,862 | 26 | 187 |
| 9 | 713 | 105 | 2,895 | 3,713 | 26 | 143 |
| 10 | 7,360 | 695 | 3,943 | 11,998 | 26 | 461 |
| 11 | 3,411 | 421 | 3,623 | 7,455 | 26 | 287 |
| 12 | 290 | 36 | 597 | 923 | 22 | 42 |
| 1 | 382 | 46 | 1,121 | 1,549 | 23 | 67 |
| 2 | 794 | 60 | 1,942 | 2,796 | 23 | 122 |
| 3 | 1,532 | 167 | 2,520 | 4,219 | 27 | 156 |
| 計 | 23,807 | 4,775 | 31,436 | 60,018 | 298 | 201 |

特別展期間中に入館者数は右表のとおりであり、入館者総数40,444人1日平均281人であった。これは入館者総数の約67%にあたり、特別展への関心の高さがうかがえる。

| 特 別 展 名 | 期 間 | 小中生 (人) | 高大生 (人) | 一 般 (人) | 計 (人) |
|-----------|-------------|------------|------------|------------|----------|
| ふるさとの湿原 | 4.27～6.19 | 5,127 | 2,345 | 7,137 | 14,609 |
| 中山道-美濃十六宿 | 7.13～9.15 | 2,893 | 337 | 6,476 | 9,706 |
| 中生代の化石 | 10.12～11.27 | 8,828 | 1,065 | 6,236 | 16,129 |
| 合 計 | | 16,848 | 3,747 | 19,849 | 40,444 |

2. 施設利用者

今年度の講堂及び研修室の利用者は次のとおりであった。

- 4.24 日本美術刀剣保存協会岐阜県支部
- 5.31 岐阜県教科研究会武儀郡・美濃市支部
- 6.11 岐阜県中学校技術・家庭科研究部会
- 6.28 関市小・中・高校長会研修会
- 7.10 日本美術刀剣保存協会岐阜県支部
- 7.19 滋賀県蒲生郡日野町立中央公民館
「近江商人塾」
- 7.29 美濃加茂市教育委員会
「夏休み子供講座」
- 8.9 山県郡小学校理科研究部会
- 8.18 岐阜県中学校理科研究部会
- 8.28 美濃文化財研究会
- 9.1 岐阜県青少年指導主事研修会
- 9.4 山県郡小学校長会

- 9.25 岐阜県哺乳動物調査研究会
- 9.28 岐阜県中学校社会科研究会
美濃市・武儀郡合同教科研究会
- 10.13 美濃教育事務所
(小中学校新採教員研修会)
- 10.16 森林生態研究会
- 11.13 東海化石趣味の会
- 11.18 山県郡校長会研修会
- 11.19 中濃地区生物教育研修会
- 11.20 日本美術刀剣保存協会岐阜県支部
- 12.25 笠松町中央公民館
「笠松親子ウインター特別教室」
- 1.14 羽島郡中学校理科教科研究部会
- 2.25 岐阜県中学校技術・家庭科研究部会
- 3.29 自治研修所(新採職員研修)

〔博物館関係団体〕

(1) 岐阜県博物館協会

岐阜県博物館協会は「会員相互の連絡提携のもとに、社会教育の健全な推進と文化の向上に寄与すること」を目的に、昭和41年に設立された。公開講座（年4回）、機関紙（季刊）、会員研修会（年3回）等の諸活動をくり広げ、設立の目的に沿うべく努力している。

平成元年3月現在、会員館数は100、個人会員23名、会長以下主な役員は次のとおり。

会長一 蒔田浩（岐阜市長） 副会長一 平田吉郎・青木允夫・森崎利光 理事長一 松本五三
協会事務局は岐阜県博物館内になる。

(2) 岐阜県博物館友の会

「博物館事業の普及を図るとともに、会員相互の教養を高め、親睦を図ること」をめざして発足した友の会にとって、63年度は創立5周年という記念の年であった。その活動をふりかえると、次の飛躍への足固めの年でもあった。

まず会員数は344名と、初めて300名台となり、前年度より51名の大幅増加であった。年齢構成は50～60歳代が多く、実年世代の強い学習意欲を感じる。生涯学習の場として友の会の進むべき道を示している。

主催事業のうち、研修の旅は日帰り3回、1泊2日1回の計4回を企画、実施した。前年度並みの回数・規模だが、参加人員は増える傾向をみせた。今後もこのペースを崩さず、“仲間とともに学ぶ楽しさ”を十分体験できる内容にしていきたい。

「博物館事業の普及を図る」という目的については、前年度同様、研修の旅のなかに、県博物館の特別展見学を組み入れて実施したが、さらに検討して実効をあげるべく努めている。

財政基盤の整備のため、前年度から導入した後援会員制度は2年目を迎え、県内の企業、団体などのご理解を賜り、初年度以上の成果をあげることができた。資料等の作成頒布事業はミュージアム・ショップの拡充とあわせて推進するよう努力している。

会の運営については、会員による自主的な運営という点で、研究課題となっている。

▼京都御所承明門前で説明を聴く会員



◎昭和63年度友の会の事業

<会 議>

総会 4.17 役員会 4.2

<研修の旅、他館見学>

- ・ 歴史探訪（宝暦治水） 5.15 41名参加
- ・ 同 （豊蔵記念館） 7.17 51名参加
- ・ 同 （京都御所） 10.23～24 46名参加
- ・ 同 （壬申の乱） 3.12 41名参加
- ・ 県美術館見学 8.13 11名参加

<友の会報発行>

- ・ 第15号 4.1 500部 A 5 6頁
- ・ 第16号 7.1 500部 A 5 6頁
- ・ 第17号 10.1 500部 A 5 8頁

＝創立5周年記念特集号＝

- ・ 第18号 1.1 500部 A 5 6頁

<資料等の作成頒布>

- ・ 未来博記念展図録
「中山道一美濃十六宿」 600部
- ・ 絵はがき 「中山道」「ギフチョウ」
- ・ 「展示案内」「ひるがの」「飛驒の匠」「ふるさとの祭り」等

<その他>

- ・ 写生会、親子教室等共催事業 14回
- ・ 会員助成（入館料補助）
- ・ 県博物館へ図書寄贈
- ・ 創立5周年記念品の作成配布

◎昭和63年度友の会役員

会 長 熊田光久
副会長 長屋一男 国光溢夫 廣田照夫
森崎利光

◎昭和63年度予算

一般会計 968,109円 特別会計1,030,544円

Ⅳ 利用案内

- ・開館時間 4月1日▶10月31日 9時▶16時30分
 11月1日▶3月31日 9時30分▶16時30分
 (入館は16時まで)

- ・入館料 ()内は特別展開催中の入館料

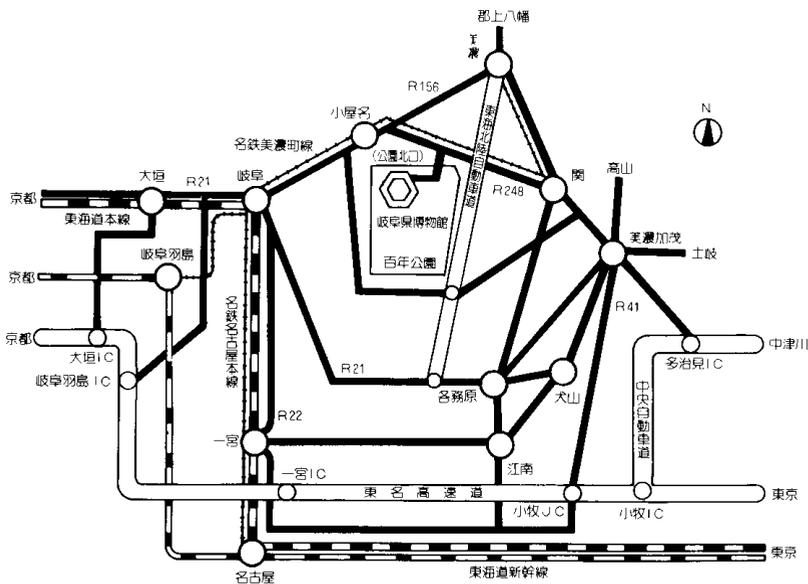
| 区分 | 個人 | 団体(20人以上) |
|--------|------------|------------|
| 一般 | 200円(400円) | 150円(300円) |
| 高校・大学生 | 100円(200円) | 50円(100円) |
| 小・中学生 | 50円(100円) | 30円(60円) |

※団体で利用していただく場合には、下見においでください。
 解説資料・利用案内等をさしあげ、館内をご案内します。

- ・休館日 月曜日(月曜日が祝日にあたる時は翌日)
 年末年始(12月27日▶翌年1月4日)

- ・駐車場 博物館には駐車場がありませんので、百年公園の駐車場をご利用ください。
 駐車料金……普通(軽)自動車 200円、バス 500円

- ・交通 名鉄美濃町線 小屋名下車 徒歩約15分
 岐阜バス 小屋名下車 徒歩約15分
 自家用車ご利用の場合は百年公園北口からお入りください。



〒501-32 岐阜県関市小屋名(岐阜県百年公園内) ☎(0575)28-3111(代表)